



令和 3 年度

所沢市教育委員会の事務事業に関する  
点検評価報告書

( 令和 2 年度事業対象 )

令和 3 年 8 月

所沢市教育委員会

「所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書」は、「第2次所沢市教育振興基本計画（令和元年度～令和5年度）」の施策体系図に基づく主要施策を点検評価の対象としています。

## 第2次所沢市教育振興基本計画

### ■ 基本理念

みんなが持っている 三つの “宝” を掘り起こして大きく育てます

- 一 心身のたくましさ
- 二 未来を拓く知恵<sup>ひら</sup>
- 三 ふるさと所沢を愛する心

### ■ 基本方針

- 1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
- 2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
- 3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります

### ■ 計画を進めていくうえでの3つの視点

様々な分野と連携した横断的・総合的な教育

ふるさと所沢が持っている地域資源を生かした教育

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）

# 目 次

<ページ>

1	趣 旨	1
2	点検評価の対象及び実施方法	
	( 1 ) 点検評価の対象	1
	( 2 ) 点検評価の実施方法	2
3	点検評価表の見方	2
4	点検評価結果	
	( 1 ) 施策体系図	3
	( 2 ) 点検評価表	6
	基本方針 1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます	
	基本目標 1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます	6
	基本目標 2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます	1 5
	基本目標 3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします	2 4
	基本方針 2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます	
	基本目標 1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます	2 9
	基本目標 2 誰もが、いつまでも身体を動かしたくなるマチをめざします	3 4
	基本目標 3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします	3 7
	基本目標 4 歴史・伝統文化を大切にし ふるさと所沢の魅力を高めます	4 2
	基本方針 3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります	
	基本目標 1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます	4 9
	基本目標 2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます	5 3
	基本目標 3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます	5 9
	( 3 ) 指標の達成状況	6 8
5	学識経験者の意見・評価	
	( 1 ) 点検評価報告書全般について	7 4
	( 2 ) 各施策に対する評価について	7 4
6	資料・教育委員会の活動状況	
	( 1 ) 令和 2 年度教育委員会会議の開催状況	7 9
	( 2 ) 令和 2 年度教育費予算・決算	8 0
7	むすび	8 3

## 1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条により、教育委員会は、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成・公表することが義務付けられています。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

所沢市教育委員会では、この規定に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、事務事業の透明性を確保し、市民への説明責任を果たすため、平成 20 年度から「教育委員会の事務事業に関する点検評価」（以下「点検評価」といいます。）を実施しています。

本報告書は、令和 2 年度に実施した事務事業に対する点検評価についてまとめたものです。

## 2 点検評価の対象及び実施方法

### （1）点検評価の対象

所沢市教育委員会では、本市における教育の振興を図るため、令和元年度に、「第 2 次所沢市教育振興基本計画（令和元年度～令和 5 年度）」（以下「第 2 次計画」といいます。）を策定し、計画に基づいて教育行政を推進しています。

このことから、「第 2 次計画」の施策体系図に基づく主要施策を点検評価の対象とすることで、同計画の適正な進行管理を行うとともに、効率的な教育行政の推進に資するものです。

### （2）点検評価の実施方法

「第 2 次計画」は、3 つの基本方針、10 の基本目標、46 の主要施策から構成されており、教育委員会では、この施策体系に沿って重点的に進める事業を定めた単年度実施計画である「所沢市教育行政推進施策」（以下「推進施策」といいます。）を毎年度作成して、各施策を総合的・計画的に推進しています。

このため、「第 2 次計画」に掲げられた 46 の主要施策すべてについて点検評価表を作成

して、現状と今後の方向性を点検評価するとともに、「推進施策」に定められた重点事業及び主要事業の実施状況についてもあわせて掲載しました。

点検評価表については、教育に関する学識経験を有する方からご意見・評価をいただいております。こちらについては巻末に掲載しています。

・外部点検評価委員（敬称略）

秋草学園短期大学名誉教授		及川 道之
国立研究開発法人科学技術振興機構	主任調査員	川音 孝夫
所沢市社会福祉協議会	常務理事	美甘 寿規

また、「第2次計画」に示されている36の指標の達成状況についても確認を行い、その結果を巻末にまとめています。

### 3 点検評価表の見方

#### 施策の目標

「第2次計画」に掲げられた施策ごとの目標を記載しています。

#### 施策の内容と今後の方向

目標の実現のため、施策の内容、今後取り組んでいく方向を記載しています。

#### 主な事業の実施状況・評価

「推進施策」に定められた最重点事業、重点事業及び主要事業の実施状況について、令和2年度中に実施した内容及び評価を記載しています。

## 4 点検評価結果

### (1) 施策体系図

基本方針	基本目標	主要施策	令和2年度の主要事業（太字は重点事業）
1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます	1 未来への一歩となる 確かな学力と自立する力を育てます	(1) 確かな学力の育成	「学び創造アクティブ PLUS」学力向上推進事業
			学習支援員配置事業
			学力向上支援講師配置事業
			教育課題に対応した学力向上推進事業
		(2) 伝統・文化の尊重とグローバル化に対応した教育の推進	確かな学力定着事業
			未来へ羽ばたく人材育成のための Tokorozawa English Action Plan (TEA-Plan)
			小学校外国語教育推進事業
			教育課題に対応した学力向上推進事業
			中学生海外文化交流派遣事業
		(3) 情報教育の推進	ふるさと研究活動事業
			小学校プログラミング教育事業（プログラミング教材導入）[新規]
		(4) キャリア教育の推進	I C T 推進事業
			中学生社会体験チャレンジ事業
	(5) 特別支援教育の推進	特別支援教育支援員等配置事業	
	(6) 幼児教育の推進	- その他の事業 - 所沢第二幼稚園運営事業	
	2 一人ひとりが持っている 思いやりのある豊かな心を育てます	(1) 道徳教育の推進	豊かな心育成支援事業
		(2) 環境教育の推進	地球にやさしい学校づくり推進事業
		(3) 体験活動の推進	特色ある学校づくり支援事業
		(4) 読書活動の推進	学校司書配置事業
		(5) 生徒指導の充実	健やか輝き支援事業
			安全・安心な学校と地域づくり推進事業
		(6) 相談体制の充実	スクールカウンセラー学校派遣事業
			教育相談アドバイザー支援事業 [新規]
			健やか輝き支援事業
			教育相談事業
	3 心身ともにたくましく 生き抜く力を伸ばします	(1) 学校保健の充実	就学相談事業
			園児・児童・生徒健康診断推進事業
(2) 学校給食・食育の充実		児童生徒食物アレルギー対応事業	
		学校給食センター再整備事業	
		小・中学校校務支援システム改修事業（保健管理機能追加）[新規]	
		学校給食食育推進事業	
		清進小学校給食室空調設備改修事業 [新規]	
(3) 安全・防災教育の推進		三ヶ島小学校給食室公共下水道接続事業 [新規]	
		健やか輝き支援事業	
		(4) 体力の向上	地域力活用運動好きな子ども育成事業

基本方針	基本目標	主要施策	令和2年度の主要事業（太字は重点事業）
2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます	(1) 学習機会の充実	<b>学習講座等開催事業</b>
		(2) 学習活動の支援	生涯学習情報紙発行事業
			IT相談事業
			生涯学習まちづくり出前講座事業
		(3) 学びの成果の活用	生涯学習ボランティア人材バンク運営事業
	(4) 人権教育の推進	人権教育推進事業	
		学校人権教育啓発資料発行事業	
	(5) 公民館事業の充実	公民館主催事業	
	2 誰もが、いつまでも身体を動かしたくなるまちをめざします	(1) 市民の健康・体力づくりの推進	所沢シティマラソン大会開催事業 スポーツ教室開催事業
		(2) 競技会場の確保や交流機会の充実	ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設活用事業
		(3) スポーツに触れる機会の充実	- その他の事業 - スポーツ大賞表彰式開催事業 総合型地域スポーツクラブ支援事業
	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします	(1) 図書館サービスの向上	所沢図書館外壁補強事業〔新規〕
			所沢図書館分館施設管理運営事業
			コンビニエンスストア図書等取次事業
		(2) 生涯にわたる読書活動の推進	図書館利用推進事業
	(3) 資料収集と蔵書構成の充実	<b>図書資料収集・整理・保存事業</b>	
	(4) 子どもの読書活動の推進	<b>子どもの読書活動推進事業</b>	
	4 歴史・伝統文化を大切にふるさと所沢の魅力を高めま	(1) 文化財の保存・活用・調査	<b>北秋津・上安松土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査事業</b>
			上安松・下安松西地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査事業〔新規〕
			下安松東地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査事業〔新規〕
三ヶ島工業団地周辺地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査事業〔新規〕			
若松町遺跡群発掘調査事業			
埋蔵文化財発掘調査事業			
滝の城跡整備事業			
ミヤコタナゴ保護対策事業			
(2) 伝統芸能の維持発展		郷土の民俗芸能支援事業	
(3) 地域の文化財の掘り起こし		文化財公開活用事業	
(4) ふるさと研究の推進		<b>ふるさと研究活動事業</b>	
	三ヶ島葎子資料室運営事業 <b>所沢市史ダイジェスト版増補改訂事業〔新規〕</b>		
(5) 郷土に関する資料の収集・保存・活用	資（史）料の収集・整理・保存・活用事業		

基本方針	基本目標	主要施策	令和2年度の主要事業（太字は重点事業）				
3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくりま	1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます	(1) 家庭教育への支援	<b>家庭教育推進事業</b>				
		(2) 放課後の居場所づくり	放課後支援事業				
		(3) 青少年教育の推進	子ども会育成事業 所沢こどもルネサンス開催支援事業				
	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます	(1) 教師力・組織力の向上		<b>小学校教科書改訂に伴う教科書等整備事業</b> [新規] 資質向上事業 学校支援訪問事業 学校法律相談事業 部活動指導員配置事業			
			(2) 特色ある学校づくりの推進	特色ある学校づくり支援事業 学校評議員活用事業			
			(3) 危機管理体制・学校安全の充実	<b>安全・安心な学校と地域づくり推進事業</b>			
			(4) 学校・家庭・地域の連携推進	「学び創造アクティブ PLUS」学力向上推進事業			
	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます	(1) ICT環境の整備		<b>電子黒板導入事業</b> <b>デジタル教科書導入事業（コンテンツ配信サービス試行的導入）</b> [新規] <b>教育ネットワーク整備事業（校内 LAN 整備）</b> [新規] <b>教育ネットワーク整備事業（パソコン教室用ネットワーク機器等更新）</b> [新規] <b>教育用コンピュータ更新事業（小学校）</b> [新規] <b>校務用コンピュータ更新事業（中学校）</b> [新規] 小・中学校校務支援システム更新事業（教育ネットワーク仮想化基盤移行） [新規]			
			(2) 学校環境の整備・適正化		<b>所沢市立山口中学校既存擁壁改修事業</b> <b>学校トイレ改修事業</b> 小学校施設整備事業 [新規] 中学校施設整備事業 [新規] 学校施設修繕・改修事業 通学区域システム導入事業 [新規] 教育センター空調設備改修事業 [新規]		
				(3) スポーツ活動の支援と環境整備		総合運動場立体駐車場防水塗装事業 <b>所沢市民体育館サブアリーナ等床改修事業</b> [新規] <b>北中運動場トイレ改修事業</b> [新規] 所沢市民武道館屋根及び弓道場改修事業 [新規] 所沢市民武道館受変電設備改修事業 [新規] 所沢市民体育館空冷ヒートポンプチラー改修事業 [新規] 所沢市民体育館メインアリーナ Wi-Fi 導入事業 [新規]	
					(4) 社会教育施設的环境整備		公民館施設整備事業 [新規] <b>公民館施設整備事業（松井公民館ホール照明 LED 化）</b> [新規] <b>公民館施設整備事業（並木公民館自動扉設置等改修工事）</b> [新規]
						(5) 就学にかかる経済的支援	就学援助事業
						(6) 多様なニーズに対応した教育機会の提供	教育課題に対応した学力向上推進事業



## (2) 点検評価表

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます		
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます		
主要施策	(1) 確かな学力の育成	所管課	学校教育課、教育センター
<b>施策の目標</b>			
<p>学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちの確かな学力や主体的に学ぶ態度を育成します。</p> <p>学習支援員・特別支援教育支援員等を配置し、一人ひとりにきめ細かな支援を行います。</p> <p>児童生徒が学習内容を深く理解し、必要な資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を図ります。</p> <p>○1人1台のタブレット端末配付に伴い、オンラインドリルを活用していくこととなり、市独自の「学びノート」については、必要に応じてホームページからダウンロードする方法にて、学校・家庭における効果的な活用を促進します。</p> <p>全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、及び市独自の学力調査等の結果を分析して指導に反映させます。</p>			
<b>施策の内容と今後の方向</b>			
<p>「学び創造アクティブPLUS」学力向上推進事業では、コロナ禍の影響を受け、本格実施することができませんでした。各小中学校では、各学年の教育課程が短期間で終わることができるように、工夫して学習に取り組み、子どもたちの実態に応じて、学力向上のために指導を行ってきました。</p> <p>原則として、教員資格を有する人材を、学習支援員として全小中学校に1人ずつ配置し、教科指導において、少人数指導をはじめ、各校のニーズに応じたきめ細かな指導を行いました。</p> <p>市独自の学力調査「所沢市ステップアップ調査」、全国や県の学力・学習状況調査等を実施することで、児童生徒の学力を把握するとともに、児童生徒のつまづきやすい問題や無回答の問題について蓄積した数値データを分析し、授業改善に生かしました。なお、市独自の学力調査「所沢市ステップアップ調査」は、全中学校全学年で実施し、その結果を進路指導の資料として活用しています。</p> <p>校務支援システム(C4th:シーフォース)により、校務に係る事務の負担軽減が図られました。引き続き、校務の情報化を推進するとともに、教職員が児童生徒へ注力する時間を確保し、「教育の質の向上」を図ります。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」につながるための指導法として、必要感の持てるめあての提示・達成感が得られる振り返り思考ツールの活用等を推進します。</p> <p>校内研修の一層の充実を図り、学校として組織的に授業改善に取り組んでいきます。</p> <p>自主的な家庭学習への更なる取組を各学校で啓発していきます。</p> <p>基本的な生活習慣について、保育園・幼稚園・認定こども園と連携して幼少期から啓発指導を図り、心身の健全な成長を支えられるようにします。</p> <p>学力向上支援講師配置校では、児童生徒へのきめ細かな指導が可能となりましたが、その効果について、埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果の経年変化と合わせ、今後も引き続き確認していきます。</p> <p>学力向上推進事業「学び創造プラン」を更に発展・深化させた「学び創造アクティブプラン」の取組を総括し、令和2年度よりさらに一歩前進した「学び創造アクティブPLUS」においても学校・家庭・地域が一体となり『未来を切り拓く 確かな学力の育成』を目指していきます。</p>			

主な事業の実施状況・評価

事業名	「学び創造アクティブ PLUS」学力向上推進事業	所管課	学校教育課	決算額	579 千円
<p>コロナ禍の影響により、「メディアとの付き合い方」「家庭での役割」の取組推進の一環として「ウィークデイチャレンジ」シートを活用し、その結果をHPで公開しました。</p>					
評価	各学年の教育課程を滞りなく終わることができ、児童生徒が学習する内容を年度内に終わることができました。				
事業名	学習支援員配置事業	所管課	学校教育課	決算額	54,228 千円
<p>学習支援員を全小中学校に1人ずつ配置し、教科指導において少人数指導や、児童生徒の個に応じた支援など、各学校のニーズに応じた指導を行いました。</p>					
評価	個に応じた学習指導や生徒指導により、学力向上に貢献しました。				
事業名	学力向上支援講師配置事業	所管課	学校教育課	決算額	29,202 千円
<p>学校の課題解決、学校クリエイト研究委託校等、積極的な教育活動を展開するために教員を必要とする学校に、学力向上支援講師を12人（小学校5人、中学校7人）配置しました。配置校においては、担任等が児童生徒と向き合う時間や教材研究・授業準備を行う時間が増えるとともに、児童生徒に対し多面的な視点から個に応じた支援を行うなど、きめ細かな指導が可能になり、学力向上に貢献しました。また、3密の回避、マスク着用、手指衛生などの基本的な感染対策を継続する学校の新しい生活様式を定着させ、感染症対策にも貢献しました。</p>					
評価	教職員の負担軽減や児童生徒へのきめ細かな指導実施や、感染症対策の一助となりました。				
事業名	教育課題に対応した学力向上推進事業	所管課	教育センター	決算額	157 千円
<p>コロナ禍や臨時休業等の影響を勘案し、令和2年度は、「学び創造アクティブ PLUS 研究校支援研修」は学校の希望のあったクリエイト研究校1校のみ実施しました。会場校へ参加者が参集する形ではなく、研究成果物である研究冊子（学習指導案綴り含む）を市内各校へ配布する形で還元しました。</p> <p>また、支援研修以外にも、感染症対策を講じた上で7つの研修会を実施し、1,015人の参加者がありました。</p>					
評価	コロナ禍での開催となりましたが、研修会参加者のアンケートで「大変よかった」「ややよかった」の合計が98%でした。				
事業名	確かな学力定着事業	所管課	学校教育課	決算額	14,763 千円
<p>市独自の学力調査（ステップアップ調査）を実施し、その結果を分析することにより、授業改善に生かし、生徒への指導に役立てました。</p>					
評価	学力調査等の結果を授業改善に生かし、生徒への学習指導に役立てることができました。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます		
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます		
<b>主要施策</b>	<b>(2) 伝統・文化の尊重とグローバル化に対応した教育の推進</b>	所管課	教育センター、学校教育課 生涯学習推進センター

#### 施策の目標

世界の平和と発展に貢献する市民を育成するために、日本及び諸外国の伝統や文化の違い等についての理解を深めます。

ふるさと所沢の歴史、自然、文化等に対する理解を深めることを通して、生まれ育った地域に愛着をもち、社会の一員として貢献していこうとする態度を養います。

TEA-Plan の成果に基づき、小中学校 7 年間で英語によるコミュニケーション能力を育成するとともに、英語教育を通して、変化の激しいこれからの時代をたくましく生き抜く児童生徒の育成をめざします。

#### 施策の内容と今後の方向

教員や小学校外国語支援員を対象とした研修会「英語サロン」の実施、小学校外国語活動・外国語科授業研修会や中学校外国語科授業研修会を通して、各校の外国語担当の資質向上を推進することができました。

TEA-Plan に基づき、国の動向を踏まえながら、継続して小学校教員の資質向上を図るとともに、新学習指導要領に応じた、中学校教員の資質向上を図るための研修会を充実する必要があります。

小学校外国語支援員や英語指導助手（AET）の派遣事業を通して、小中学校 7 年間の英語教育の充実を図ります。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	未来へ羽ばたく人材育成のための Tokorozawa English Action Plan :TEA-Plan	所管課	教育センター	決算額	0 千円
小中学校 7 年間に於ける英語教育の取り組みの充実を図るため、英語教育を推進できる教員養成のための研修会を Web 会議システムを活用して行い、文部科学省の教科調査官や視学官を指導者として「指導と評価の一体化」についての理解を深めました。					
評価	研修会の参加者からのアンケートで「大変よかった」「ややよかった」の回答が 100%でした。				
事業名	小学校外国語活動推進事業	所管	教育センター	決算額	12,167 千円
小学校に外国語支援員 16 名を派遣し、小学校の外国語活動・外国語科の支援を行いました。また、コロナ感染症対策を講じた上で、教員、小学校外国語支援員を対象とした研修会「英語サロン」を 2 回実施し、延べ 9 人の参加がありました。					
評価	研修会の参加者からのアンケートで「大変よかった」「ややよかった」の回答が 100%でした。				
事業名	教育課題に対応した学力向上推進事業	所管	教育センター	決算額	77,128 千円
小中学校に英語指導助手 15 人を派遣し、外国語教育の充実及び国際理解教育の推進を図りました。					
評価	小中連携や接続、小学校段階の外国語教育の充実に貢献することができました。				
事業名	中学生海外文化交流派遣事業	所管	学校教育課	決算額	0 千円
コロナ感染症拡大防止の観点から中止しました。					
評価	令和 2 年度は派遣を中止しましたが、今後はコロナ感染状況を注視し、実施できるよう検討していきます。				

事業名	ふるさと研究活動事業	所管	生涯学習推進センター	決算額	8,534 千円
	<p>市内小学校と連携し、職員を派遣しての出張授業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所沢の民話や昔話 実施日：令和2年10月22日 対象：清進小学校5年生 108人</li> <li>・ 所沢飛行場と美原小学校周辺の歴史 実施日：令和2年11月11日 対象：美原小学校3年生 92人</li> <li>・ 昔の暮らし 実施日：令和3年2月18日 対象：清進小学校3年生 104人</li> </ul> <p>小学校で「昔の暮らし」の学習をする時期に合わせて、関連する内容の企画展示及び関連行事を行いました。 冬季企画展「昔さがし展～着るものと暮らし～」 開催期間：令和3年2月9日～3月14日</p>				
評価	<p>コロナ禍により、小学生がクラス単位で来所しての体験学習はできませんでしたが、代わりに職員を派遣した出張事業を実施しました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます				
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます				
主要施策	(3) 情報教育の推進			所管課	教育センター
<b>施策の目標</b> 児童生徒の情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能、問題解決・探究における情報活用能力（プログラミング的思考・情報モラル・セキュリティを含む）を育成します。 ICT を適切に活用した学習活動の充実を図るために、教員を対象とした研修・研究を推進します。					
<b>施策の内容と今後の方向</b> 情報活用能力を育成するために、教員を対象とした ICT 教育推進研修及び研究を推進します。 GIGA スクール構想に基づく ICT 環境の整備と、効果的な ICT 活用による授業実践に向けた研修の充実を図ります。 液晶ディスプレイ等の ICT 機器や、デジタル教科書、オンラインドリル、授業支援ソフトの効果的な活用を推進します。 教育情報セキュリティポリシーの見直し、情報モラル研修会の実施等による情報セキュリティに対する意識の啓発に取り組みます。					
<b>主な事業の実施状況・評価</b>					
事業名	小学校プログラミング教育事業 (プログラミング教材導入)[新規]	所管課	教育センター	決算額	3,673 千円
市内小学校 32 校に、プログラミング教材の「マイクロビット」児童用 10 台と教員用キット 1 セット、アンブレグド教材の「ルビィのぼうけん」1 セットを導入しました。					
評価	学習指導要領の改訂に伴うプログラミング教育の必修化に合わせ、全小学校にプログラミング教材を整備することができました。				
事業名	ICT 推進事業	所管課	教育センター	決算額	2,220,719 千円
児童生徒一人一台端末の導入に伴い、Chromebook 管理者研修会、Chromebook 基礎研修会、オンラインドリル活用研修会、授業支援ソフト活用研修会等、操作体験を交えた研修を、合計 15 回実施しました。 ICT 活用研修会では、オンラインドリルを活用した授業研究を行いました。研究協議では、学校でのオンラインドリルの活用について話し合いました。 情報モラルに関しては、GIGA スクール構想の実現に向けて「所沢市教育情報セキュリティポリシー」を新たに策定しました。校務用端末や USB メモリによる個人情報の取り扱い等について、校・園長会や研修会を通して周知するとともに、保護者用リーフレット・児童生徒用リーフレットを通して、家庭での情報モラルについて啓発しました。 教育センターと小中学校のコンピュータをつなぐ教育ネットワークの運用・管理を行いました。 学校の ICT 環境の整備充実を図るため、教育委員会関係各課の担当者による教育情報化プロジェクト会議を実施し、課題の共有を図りました。 GIGA スクール構想に基づく校内 LAN 環境、一人一台端末、各教室の大型ディスプレイ等の ICT 環境の整備を加速度的に進めました。					
評価	国のロードマップに沿って、計画を変更しながらも機器やセキュリティ面での ICT 環境の整備を行うことができました。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

<b>主要施策</b>	<b>(4) キャリア教育の推進</b>	所管課	学校教育課
-------------	----------------------	-----	-------

#### 施策の目標

将来働くことについて、関心・意欲がもてるよう、小中学生の発達段階に応じた体系的なキャリア教育\*を進めます。近隣にある事業所等で職場体験を行うことで、地域社会の仕組みを勉強しながら職業観・勤労観を育成します。

中学校の進路指導を充実させ、生徒自身が主体的に将来の生き方を考え、進路の選択、設計ができるようにします。

\* キャリア教育…一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

#### 施策の内容と今後の方向

小学校における「勤労生産体験」や「社会奉仕体験」では、地域で働く方と触れ合うことで、地域とのつながりや働くことの大切さを体感しています。また、「職業に触れる体験」につなげていくことができるように、体系的なキャリア教育を構築する必要があります。

職場体験学習（中学校）は、市内全15中学校で、1・2年生を中心に実施されています。学校では得られない体験をすることで生徒の職業観、勤労観、さらには、自己理解を深めるよい機会となっています。生徒からは、「事前の学習、職場体験、事後のまとめや体験新聞の作成を通して、職業をより身近にとらえ、将来の自分について考えを深めることができた」との声があります。

ふれあい講演会は中学校10校で実施され、将来の生き方を考える貴重な機会となっています。講演会は、地域で働く方、スポーツ関係者、民間企業の方、所沢出身者などを講師として招き、講演を行っています。講演では、生きること、努力することの大切さを講師から学んでいます。

小中の連携が進む中、キャリア教育においても、小中学校9年間を見通して、児童生徒が自らの生き方を考える教育を深めていく必要があります。

中学校における職場体験学習は、時期や日数など各校独自の取組となっています。受入条件の中に保菌調査を行うことが増えたことによる予算の確保、職場体験の受入先の継続的な確保をしていく必要があります。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	中学生社会体験チャレンジ事業	所管課	学校教育課	決算額	0千円
コロナ禍の影響により、令和2年度における中学生社会体験チャレンジ事業実施校はありませんでした。					
評価	社会体験チャレンジ事業は実施できませんでしたが、各校にて工夫を図り、企業講演を行ったり、映像資料を用いて学習したりすることで、生徒に望ましい職業観や豊かな感性を育む取り組みができました。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます		
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます		
主要施策	(5) 特別支援教育の推進	所管課	学校教育課
施策の目標	<p>障害のある子と障害のない子が共に学ぶことを追求するとともに、教育的ニーズに応じた多様な学びの場を整備し、インクルーシブ教育システム*の充実を図ります。</p> <p>長期的な視点で一貫した支援が行えるよう、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用を推進します。</p> <p>* インクルーシブ教育システム…障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み。個別の教育的ニーズに応えるため、通常の学級、通級による指導、特別支援学級等、連続性のある多様な学びの場を用意しておくことが必要とされている。</p>		
施策の内容と今後の方向	<p>「支援籍学習*」の実施促進と、交流及び共同学習の機会充実により、心のバリアフリーに取り組んでいます。</p> <p>「特別支援学級」の設置を計画的に行い、より多くの児童生徒が居住地の学校に通うことができるよう準備を進め、令和2年度に特別支援学級を小学校1校に新設、また、小学校1校に増設しました。これにより、令和2年度は、小学校全32校のうち26校、中学校全15校のうち12校への設置が完了しました。</p> <p>「通級指導教室」における指導の充実により、対象児童生徒の支援に成果を上げています。</p> <p>発達障害・情緒障害通級指導教室 … 小学校2校7教室、中学校1校2教室を設置（令和2年度設置状況）</p> <p>難聴・言語障害通級指導教室 … 小学校2校4教室を設置（令和2年度設置状況）</p> <p>各学校が作成した「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を把握し、必要に応じ指導・助言を行っています。</p> <p>「特別支援教育支援員」を全小中学校の通常の学級に、また、「心身障害児介助員」を全ての特別支援学級設置校にそれぞれ配置し、支援体制を整備しました。併せて、校内の特別支援教育コーディネーターと連携しながら、配慮を要する児童生徒の学習支援や日常生活上の介助などを行いました。</p> <p>特別支援教育支援員及び心身障害児介助員は、専門的な知識技能が必要となることから、資質向上を図るために任用後も定期的に研修を行っています。例年は春1回、夏2回の合計3回研修会を実施していましたが、令和2年度はコロナ禍の影響により、資料提供による研修会としました。子どもとの接し方や発達障害の理解に関する資料の提供などを行いました。</p> <p>特別支援学級の計画的な新設・増設を推進するにあたり、「心身障害児介助員」の増員に伴う予算並びに人材の確保、併せて各学校の特別支援教育コーディネーターや就学相談担当者、特別支援教育支援員等の資質向上を図る研修会を行い、特別支援教育の指導者育成を計画的に進めていく必要があります。</p> <p>「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について、各学校が適切に作成できるよう、引き続き指導・助言を行っていきます。</p> <p>特別支援学級の計画的な新設・増設を推進するとともに、各学校と連携し、支援籍学習や交流及び共同学習をさらに充実させていく必要があります。令和3年度は、伸栄小学校に特別支援学級を新設し、中富小学校に特別支援学級を増設します。また、山口中学校に通級指導教室を新設します。今後も引き続き、各年度の就学相談の動向や在籍児童生徒の学年、地域のバランス等をふまえ、順次計画的に設置を進めていきます。</p> <p>* 支援籍学習…通常の学級・特別支援学級・特別支援学校のそれぞれに在籍する児童生徒が、必要に応じて、特定の学習を他の学校や学級で行う形態。</p>		

主な事業の実施状況・評価

事業名	特別支援教育支援員等配置事業	所管課	学校教育課	決算額	168,387千円
<p>全小中学校に「特別支援教育支援員」を配置し、通常の学級における配慮を要する児童生徒に対する学習支援や、日常生活上の介助などの支援を行いました。特別支援学級設置校には「心身障害児介助員」を配置し、特別支援学級における配慮を要する児童生徒に対する学習支援や、日常生活上の介助などの支援を行いました。</p>					
評価	<p>学校及び保護者から、児童生徒の個に応じたきめ細かな支援が行われているという感想があり、人的支援が有効に活用されています。</p>				



基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

<b>主要施策</b>	<b>(6) 幼児教育の推進</b>	所管課	学校教育課、教育センター
-------------	--------------------	-----	--------------

#### 施策の目標

幼児期は人間形成の基礎が培われる時期であるため、遊びや生活を充実させ、調和のとれた心と体を育成します。子どもたちが健やかに成長できるように、「子育ての目安『3つのめばえ』<sup>\*</sup>」等を活用し、保護者の子育ての意識を高めます。

幼児教育振興協議会を通して、就学前教育を支援するとともに、幼児教育から学校教育への滑らかな接続を図るため、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校で、子どもたちの交流する機会を充実させ、保育・授業参観とその後の研究協議等で顔の見える連携を進めます。

<sup>\*</sup> 子育ての目安「3つのめばえ」…埼玉県教育委員会で示している小学校入学までに身につけてほしいこと。家庭向けの広報リーフレットが発行されている。

#### 施策の内容と今後の方向

市内5ブロックで構成される所沢市幼児教育振興協議会において、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校教職員が情報交換を行い、指導内容や指導方法の相互理解を深めました。

入学説明会や就学时健康診断で個別相談の場を設定し、入学前の不安を取り除くような取組を設定しました。

幼稚園・保育園・認定こども園、小学校に「子育ての目安『3つのめばえ』」の周知を図り、共通認識のもと、共に子どもを育てていくことを目指しました。今後は家庭へも周知を図る必要があります。

幼稚園・保育園・認定こども園と小学校とで互いに子どもの様子を参観する機会を設定し、課題を共有したことで、参加した園と学校との連携が進みました。今後は、コロナ禍における参観のあり方や、子ども支援センター（マーガレット・ルピナス）等との連携など、充実させる必要があります。

「学び創造アクティブPLUS」学力向上推進事業に幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の連携を位置づけ、幼児教育振興協議会の協力を得て作成した「所沢市小1スタートカリキュラム」の周知とより一層の活用を図っていきます。

市内小中学校で取り組んでいる「ウィークデイチャレンジ」について、就学前の保護者へも周知を図り、幼児期から生活習慣の改善に取り組んでもらうようにします。

所沢第二幼稚園については、平成21年の所沢市立幼稚園運営協議会による「2園廃園が望ましい。」とする答申を受け、平成30年7月の教育委員会会議にて「廃止の時期については、廃止後の施設活用等の有効で適切な措置を講じたうえで決定するものとする。」と議決を得ております。なお、所沢幼稚園は、平成23年3月に廃園しております。

#### 主な事業の実施状況・評価

コロナ禍の影響により研修会の開催回数は例年より減りましたが、令和2年6月から令和3年2月までにおいて、市内を5ブロックに分け、各ブロック別の研修会を計6回開催し、情報交換を行いました。

評価	就学予定の児童の情報交換を行ったことで、幼児教育から学校教育への滑らかな接続につながりました。
----	---

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます

主要施策	(1) 道徳教育の推進	所管課	学校教育課、教育センター
------	-------------	-----	--------------

施策の目標	<p>個人が直面する様々な状況の中で、主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、豊かな心を育むため、家庭と連携しながら、学校の教育活動全体を通して道徳教育に取り組みます。</p> <p>道徳的実践力とともに人権意識を高め、他者の痛みにも共感できる豊かな人間性や、いじめを許さない心を育てます。</p> <p>道徳科の授業を要とした道徳教育において、「生命の尊さ」が実感できる教育を進めます。</p>
-------	--

施策の内容と今後の方向	<p>全小中学校で道徳教育の全体計画、道徳の年間指導計画を作成するとともに、校長が道徳教育推進教師を指名し、児童生徒の豊かな心を育むための授業改善を図りました。</p> <p>小学校、中学校ともに教科書に加え、「私たちの道徳」「彩の国の道徳」など、様々な資料を用いて授業に取り組みました。</p> <p>学校人権教育啓発資料発行事業では、各校から人権に関する作文・標語を募集し、編集委員会で選定された作品をまとめた人権文集「ともだち」を発行・配布しました。また、小中学校における人権教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性を醸成することに努めました。</p> <p>家庭、地域と連携しながら、道徳教育のより一層の推進を図ります。</p> <p>いじめ防止対策推進法に基づき本市で平成26年2月28日に策定した所沢市いじめ防止基本方針を令和元年12月に一部改定しました。各校においても、いじめ防止基本方針に従い実効性を高めるために学校の基本方針を改定し、スクールカウンセラーの活用や家庭、地域との一層の連携等の取組を行いました。引き続き、各学校におけるいじめ防止基本方針を基盤に、「考え、議論する道徳」の授業を行い、より実効性のある取組を展開します。</p> <p>いじめを未然に防止するためには心の教育を一層充実させる必要があり、道徳教育の充実を図ることによって、児童生徒に他者の痛みを共有できる資質や生命を尊重する心を育てる必要があります。</p> <p>各小中学校において、道徳科の授業を要とした道徳教育の充実が図られるよう、研修会の内容を工夫・改善していきます。</p>
-------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	豊かな心育成支援事業	所管課	教育センター	決算額	27千円
評価	<p>「心と体の調和のとれた人間の育成」に向け、授業や学校生活等、教育活動全体を通して子どもたちの豊かな心を育成できるよう、最先端の情報発信や具体的な指導のあり方についての研修会を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育研修会は、コロナ禍のため、本センターへの集合研修から、各校の人権教育主任が校内研修を実施する方法に変更しました。指導者作成の資料を指導案とともに配布しました。</li> <li>・道徳科授業研修会では、文部科学省の教科調査官を招へいし、感染症対策を講じた上での研究授業、研究協議、講義を行い、「読み取り道徳・押しつけ道徳にしない指導法」について学びました。</li> </ul> <p>コロナ禍の影響により、資料配布による校内研修を実施したことから、参加者が増え、795名となりました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます		
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます		
主要施策	(2) 環境教育の推進	所管課	学校教育課、教育センター 保健給食課

#### 施策の目標

市長部局と連携し、持続可能な社会の担い手を育てための環境教育（ESD<sup>\*1</sup>の視点）を行い、自然との調和を大切にすることを育てます。

児童生徒、教職員の環境意識を高め、環境に配慮した学校づくりを通して、持続可能な社会づくりの担い手を育てます。特に優れた取組を行った学校を「地球にやさしい学校大賞<sup>\*2</sup>」として表彰します。

<sup>\*1</sup> ESD… Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳される。現代社会の問題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。つまり、ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育て教育。

<sup>\*2</sup> 地球にやさしい学校大賞…市と教育委員会が連携して、特に優れた環境活動を行った学校を表彰する取組。

#### 施策の内容と今後の方向

○令和2年度は、コロナ禍の影響を受け、「地球にやさしい学校づくり」への取り組みは行うことができませんでした。各学校では、できる内容を検討しながら環境教育を実践してきました。

『はじめよう ECO 生活！』エコファミリー宣言』等への参加を呼びかけ、自然との共生やエコライフについての意識の向上を図りました。

教育センターにおいて「ESD 調査研究協議会」を開催し、持続可能な社会の担い手を育て「授業の在り方」について研究し、電子書籍にまとめ発行しました。会議についても Web 会議システム等を積極的に活用し、感染防止に配慮しながら、持続可能な会の運営に努めました。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	地球にやさしい学校づくり推進事業	所管課	学校教育課	決算額	0千円
	<p>コロナ禍の影響を受け、地球にやさしい学校づくりの取組を本格的に行うことはできませんでした。令和元年度に市内全小中学校が参加した「地球にやさしい学校」の取組について、「地球にやさしい学校大賞」の表彰を行いました。また、受賞校以外の学校においても、できる範囲で資源回収、みどりのカーテン、節水、エコキャップ回収、食品ロス削減などの取組が行われました。</p> <p>(市長賞)・清進小学校 環境目標：ビオトープで自然を大切に清進小学校 ～身近な環境問題に目を向けた取組～ 雑木林型ビオトープを、様々な授業で活用しています。児童、保護者、地域、教職員で一体となり管理維持を行っています。令和元年度の「全国学校・園庭ビオトープコンクール」で「日本生態系協会賞」を受賞しました。</p> <p>・山口中学校 環境目標：地域と資源を守る山口中学校 ～ボランティア活動で取り組む地域環境保全～ 学校ファームの管理（土作から収穫まで）を、3年生を中心に総合的な学習、技術科で実施しました。グリーンカーテンの設置・育成を行ったり、生徒会を中心に、地域の清掃活動に参加したりしました。</p>				
評価	地球にやさしい学校の取組を通して、子どもたちの環境や資源保護の意識が高まりました。				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます

主要施策	(3) 体験活動の推進	所管課	学校教育課
------	-------------	-----	-------

#### 施策の目標

地域の人・自然・文化とのふれあいなど様々な体験活動を通して、豊かな人間性や社会性、そして「ふるさと所沢」を愛する心を育みます。

家庭、地域などと連携し、すべての児童生徒が自然体験、職業体験、社会奉仕体験や世代間交流など、様々な体験活動の充実を図る「埼玉の子ども70万人体験活動<sup>\*</sup>」を推進します。

学校単位の農園を設置し、心身ともに発達段階にある児童生徒が農業体験活動を通して、生命や自然、環境や食べ物などに対する理解を深めるとともに、情操や生きる力を身につけることをねらいとした「学校ファーム」の取組を推進します。

<sup>\*</sup> 埼玉の子ども70万人体験活動…すべての児童生徒が自然体験、職業体験、勤労生産体験、社会奉仕体験や世代間交流を行うなど、家庭・地域・企業・NPOなどと連携して、発達段階に応じた様々な体験活動を進める埼玉県の取組。

#### 施策の内容と今後の方向

「みどりの学校ファーム」を全小中学校で実施しています。学校ファームでは、地域の方々や専門的な知識・技能を有する方の協力を得ながら、野菜作りや稲作などが行われました。農業体験を通じて、生産者への感謝の気持ちが育つとともに、自分たちが苦労して作った野菜を調理し、食べることで「食べ物を大切にしよう」「残さずに食べよう」という心が育つなど、食育においても大きな効果がありました。また、協力してくれた地域の方々へ感謝の気持ちを込めて、調理したものを振舞うなど、地域とのふれあいにもつながっています。

70万人体験活動では、各学校で職場体験・農業体験・社会奉仕体験・伝統芸能体験などが行われています。それらの活動をまとめたものは、市役所の市民ギャラリーや教育センターのホールに展示し、活動の様子を広めています。

集団宿泊活動等の校外学習では、自然の中での、日常生活では体験することのできない環境において見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるよう、各校の実態に合わせて行っています。

児童生徒による主体的な活動とするためには、工夫の余地もあります。体験活動の一層の充実を図るため各校の様々な取組を市内小中学校で共有していきます。

郷土の芸能・文化に触れる体験活動の更なる充実に向けて、啓発に努めるとともに、地域人材との交流による体験活動の充実を推進していきます。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	特色ある学校づくり支援事業	所管課	学校教育課	決算額	11,898千円
	<p>所沢第二幼稚園及び各小中学校が、創意工夫を凝らし、地域の特性を活かした、主に体験的な教育活動を実施しました。地域の特性を活かした活動として、「生活科や総合的な学習の時間等における地域の伝統芸能や地場産業の体験的な学習」「環境美化のための保護者、地域と連携した花壇への植栽」「地域の行事や清掃活動への参加」等が行われました。</p> <p>各校・園に対し、前年度の実績と今年度の計画を元に事業委託料を配当したほか、年度途中と年度末に、進捗状況の把握及び成果報告と次年度の計画についてヒアリングを行い、事業委託料の有効活用や本事業の周知方法についての助言など、各校・園の取組を支援しました。</p>				
評価	<p>活動を通して子どもたちの豊かな心や、主体的に学び自ら問題を解決する資質・能力を養うことができました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます		
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます		
主要施策	(4) 読書活動の推進	所管課	学校教育課、教育総務課 所沢図書館

#### 施策の目標

読書は子どもたちの言語感覚、想像力、知的好奇心等を高め、生活を豊かなものにしてくれます。学校図書館の活用をはじめ、地域のボランティアによる読み聞かせや朝読書等により、子どもたちが本を身近なものとして感じることができる環境の充実に努めます。また、家族ぐるみで読書を楽しむ家読（うちどく）を推進します。

司書教諭をはじめとした学校図書館を担当する教員を補助する学校司書を配置し、学校図書館を円滑に管理・運営するとともに、学校図書館の図書の充実に努めます。

#### 施策の内容と今後の方向

令和2年度に33人の学校司書を中学校全校15校と小学校31校に配置し、図書の整理や図書館活動についての充実に努めました。また、これにより全校配置が完了しました。（松井小学校図書館を除く）

学校司書や図書ボランティアの支援を受け、学校図書館の書架の見出しづくりや飾り付け、図書の展示や修繕、児童生徒への読み聞かせ等、読書活動を推進しました。

松井小学校図書館の利用拡大について検討を行い、平成29年度から市内に勤務する幼児教育・学校教育に係る教職員等（幼稚園、保育園、認定こども園、小学校、中学校及び児童館の職員）に開放しています。

学び創造アクティブPLUSにおいて、家庭学習の習慣をすすめる中で、毎月23日を「家読（うちどく）の日」として、読書の充実に努めました。

学校図書館が備えるべき蔵書数の目安として学校図書館図書標準\*がありますが、この図書標準を満たしている学校は、令和3年3月現在、小学校11校、中学校4校にとどまっています。学校図書館図書標準を満たす学校が増えるよう、予算配分の見直し等で蔵書数の増加と更新に力を入れ、充実した蔵書を目指します。

\* 学校図書館図書標準（充足率）…公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準冊数のことで、平成5年に文部科学省が定めたもの。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	学校司書配置事業	所管課	学校教育課	決算額	34,309千円
令和2年度に、美原小、中富小、林小、宮前小の4校に2人の学校司書を新たに配置し、全校配置が完了しました。					
評価	<p>図書の配架や掲示物の工夫、図書だよりの発行等、児童生徒にとって利用しやすい学校図書館に整備・充実したことで、児童生徒の読書への興味・関心が高まり、図書館を利用する児童生徒が増えました。</p> <p>学校司書による図書館の利用方法のアドバイスにより、各教科、総合的な学習の時間で、図書を活用した調べ学習の仕方が児童生徒に身に付いてきています。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます		
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます		
<b>主要施策</b>	<b>(5) 生徒指導の充実</b>	所管課	学校教育課、教育センター
<b>施策の目標</b>			
<p>児童生徒一人ひとりに対する理解に基づいた生徒指導を推進するため、研修等の充実を図り、教職員の資質向上に取り組みます。</p> <p>「所沢市いじめ防止基本方針」と各学校の実態に応じた基本方針にもとづく組織的な校内指導体制を確立するとともに、ネットトラブル等、複雑化・多様化するいじめの未然防止や解消を図る取組を支援します。</p>			
<b>施策の内容と今後の方向</b>			
<p>本市では、一昨年度まで3年にわたり、生徒の命に関わる重大な事案が連続して発生しており、教育委員会としても非常に重い課題として受け止めています。このような痛ましい事案を二度と起こさないという強い決意の下、引き続き、以下の取組を行っていきます。</p> <p>「いじめ防止対策推進法」に基づき、「所沢市いじめ防止基本方針」を令和元年12月に改定し、さらに令和2年6月に「所沢市いじめ対応マニュアル」を改定しました。児童生徒が安心してSOSを発することのできる学校の実現とともに、援助を求めることが苦手ないわゆる「目立たない児童生徒」の声なき声に耳を傾け、微かなサインに目を配るよう、各学校に徹底しました。また、いじめ防止等の対策を実効的に行う機関として、平成27年に設置された「所沢市いじめ問題対策委員会」に市内の現状を報告し、いじめ防止やいじめ発生時の対応について意見をいただき、取組に生かしています。</p> <p>いじめ・暴力行為等への対応については、日ごろから指導主事や生徒指導・いじめ問題対策員・安全安心対策推進員・心理士等が情報収集と指導・助言を行うとともに、生徒指導・教育相談訪問(年2回)において、各学校から提出された計画や個票等をもとに指導・助言に当たりました。また、生徒指導主任研修会や教育相談主任研修会等においても、的確な対応についての確認を行うなど児童生徒一人一人とのより良い人間関係づくりの一助としました。</p> <p>いじめ等に関するアンケート調査を全小中学校の児童生徒・保護者に対して実施し、早期発見・早期対応に努めるとともに、発見時には生徒指導部・教育相談部を中心に迅速に対応しています。</p> <p>いじめ・暴力行為等、課題の解決が困難なケースについては、当該校へ指導主事が出向き、生徒指導部会や教育相談部会、ケース会議等に参加し、集中的な支援を行いました。また、安全安心対策推進員や生徒指導・いじめ問題対策員が各学校を訪問して指導・助言を行うとともに、発生後の継続的な見届けも行いました。また、教育センターや教育臨床研究エリア等において、保護者や教職員からの相談に対応しています。</p> <p>教育相談体制の充実については、市費スクールカウンセラー(4人)を全中学校及び必要に応じて小学校に派遣し、心理の立場から児童生徒を支援しました。また、心のふれあい相談員(32人)を全小中学校に配置し、児童生徒との相談や家庭訪問等を実施しています。学校の教員、県費・市費のスクールカウンセラー、心のふれあい相談員が、連携して相談活動を行うことで、子どもの発するSOSを迅速に受け止め、問題の未然防止、早期発見、早期対応を充実させています。</p> <p>生徒指導上の諸問題が年々複雑化・多様化していますが、問題解消に向けて、学校と教育委員会各課のほか、警察や児童相談所、こども支援課等と連携しながら情報を共有し、指導・支援を行います。</p> <p>子どもの生命に関わる痛ましい事案を重く受け止め、各学校の生徒指導体制を充実させ、再発防止に努めます。命の大切さをしっかり伝え、豊かな心を育成する教育を推進していきます。</p> <p>国及び県の動向を踏まえ、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図るため、ネットパトロール、教職員研修、いじめ相談窓口の周知、教育相談の充実等、実効的な取組を進めていきます。</p>			

主な事業の実施状況・評価

事業名	健やか輝き支援事業	所管課	学校教育課	決算額	53,958千円
事業内容	<p>健やか輝き支援室（心のふれあい相談員、安全安心対策推進員、生徒指導・いじめ問題対策員、心理士、いじめホットライン）では、生徒指導や心の悩み、発達障害等に関する相談、計 33,151 件に対応しました。</p> <p>生徒指導・いじめ問題対策員による非行防止、薬物乱用防止、ネットトラブル等の教室を 18 回実施しました。</p> <p>心のふれあい相談員 15 人を全中学校に、17 人を全小学校に配置し、小中学校が連携して相談活動ができるようにしました。</p> <p>「所沢市いじめ問題対策委員会」を開催し、本市の現状及びいじめ問題発生時の対応について協議しました。各大学と連携し、次の支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早稲田大学と連携し、児童生徒が抱える学校不適応や発達障害などの困難さに対する学校の理解を深め、適切な支援につなげるため、大学院生（13 人）を学校に派遣予定でしたがコロナ禍により中止しました。</li> <li>・淑徳大学と連携し、不登校児童生徒の教室復帰に向けた個に応じた支援を行うため、学生を学校に派遣予定でしたがコロナ禍の影響により中止しました。</li> </ul>				
評価	<p>児童生徒を理解するための教職員の資質向上研修や市費スクールカウンセラーの配置、課題解消に向けての専門機関との連携などを通し、教育相談体制の充実を図ることができました。</p>				
事業名	安全・安心な学校と地域づくり推進事業	所管課	学校教育課	決算額	12,671千円
事業内容	<p>令和 2 年度、「安全・安心な学校と地域づくり推進本部」（行政機関・警察・地域関係団体・中学校・高等学校等により組織する連絡協議会）の本部会議を 2 回行う予定でしたが、コロナ禍の影響により、1 回目は書面開催、2 回目は中止としました。令和 3 年度は感染症の状況をふまえながら、1 回開催する予定です。近年、本市で発生している児童生徒の事件・事故の概要、中学校区ごとに組織する推進支部の活動、関係行政機関の活動について情報を共有し、下記の取組に生かしています。</p> <p>本事業の大きな 4 本の柱として、「いじめ撲滅」「交通事故防止」「地域行事への主体的参加」「地域ぐるみのあいさつ運動」を掲げています。例年、推進支部ごとに、登下校の見守り、校外パトロール、防犯講習会、あいさつ運動等の活動を行っています。</p> <p>【児童生徒の地域行事への参加人数】</p> <p>令和 2 年度 延べ 1,092 人（令和元年度 34,631 人）</p> <p>【推進員の活動状況】学校訪問・地域での支援</p> <p>令和 2 年度 延べ 679 回（令和元年度 延べ 706 回）</p> <p>【支部会議の開催状況】</p> <p>令和 2 年度 1 回（令和元年度 28 回）</p>				
評価	<p>コロナ禍の影響により、活動の一部に制約がありましたが、経験豊富な推進員が各学校を巡回するなど、きめ細かな支援ができました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます

主要施策	(6) 相談体制の充実	所管課	教育センター、学校教育課
------	-------------	-----	--------------

#### 施策の目標

すべての子どもたちが個性や能力を伸ばし、健やかに成長できるよう、家庭との面接相談やスクールソーシャルワーカー<sup>\*1</sup>による訪問、学校への教育相談アドバイザーの派遣等を通し、課題を抱える児童生徒やその保護者及び教職員の解決力を高める支援を行い、必要に応じて関係機関につなげる相談活動を推進します。

不登校の未然防止のために巡回や訪問による出向く支援や、教育支援センター「クwest」における不登校児童生徒への個別活動・集団活動等の社会的自立に向けた支援を強化します。

教職員を対象に、児童生徒理解を通し自己肯定感を高め、児童生徒の生き抜く力を育てる研修や研究、校内の相談体制の構築に必要な知識・理解を深める研修を行います。

「児童生徒の様々な困難・ストレスへの対処方法を身につけるための教育」を進めます。

子どもの成長段階に応じた様々な課題（いじめ・非行問題行動・不登校・虐待等）に対し、学校や教育委員会の各機関が、専門家（心理士・警察 OB・元校長等）を含むチームを編成し、必要に応じて市長部局や他の専門機関等とも連携を図り、解決に向けた取組を進めます。

障害の特性や教育的ニーズ、保護者の意向を踏まえた就学相談の充実を図ります。

スクールカウンセラー<sup>\*2</sup>や「心のふれあい相談員」を配置し、学校の相談体制を整備します。

教育や心理を学ぶ大学生を小中学校に派遣し、学校不適応や発達障害等の課題を抱える児童生徒を支援します。

<sup>\*1</sup> スクールソーシャルワーカー…教育と福祉の両面に関して、専門的な知識・技術を有するとともに、児童等が置かれた様々な環境への働き掛けや、関係機関等とのネットワークを活用するなどにより、課題を抱える児童等に支援を行う専門家。県から所沢市に3人配置されている。

<sup>\*2</sup> スクールカウンセラー…臨床心理に関して高度な知識・経験を有し、いじめ・不登校等、生徒の心の相談に当たるとともに教職員や保護者への助言・援助を行う専門家。

#### 施策の内容と今後の方向

本市では、一昨年まで3年にわたり、生徒の命に関わる重大な事案が連続して発生しており、教育委員会としても非常に重い課題として受け止めています。このような不幸な事案を二度と起こさないという強い決意の下、子どもの成長段階に応じた様々な問題に対して、各機関が連携しながら次の取組を行いました。今後も、学校教育課と教育センターの業務及び相談窓口にて、保護者や学校が相談しやすい環境を整えます。なお、教育相談と生徒指導は連携を密にして事業を行っているため、点検評価表 1-2-(5)生徒指導の充実と同一内容を記載している箇所があります。

##### 教育センター

・子どもたちが未来を主体的に生き抜く力を育めるよう、全ての教師が授業力や学級経営力を高め、学校の組織力の向上を図るという目的の下、「心のエネルギープロジェクト」を進めました。ゲートキーパー養成研修会では自己肯定感とその高め方について早稲田大学名誉教授の菅野純先生に御講義いただき、資料とDVDを学校に配布しました。また、そこで示された「心のピラミッド」をカードにして市内全教職員に配布し児童生徒の自己肯定感の醸成に対する教職員の意識を高めました。また、メッセージと映像資料「今、あなたがここにいること - かけがえのない あなただから -」は、前年度に作成したものと同様に、アイメッセージを通し「自己肯定感を高めること」をねらいとして、新たに作成した映像資料です。このメッセージは市内全児童生徒とその保護者に配布し、映像資料は市内全小中学校で教職員及び児童生徒が視聴しました。市内全ての教職員が共通理解のもと、児童生徒の自己肯定感の醸成を図る取組ができました。



・スクールソーシャルワーカーについては、今年度、コロナ禍の影響で、家庭環境が原因となるケースが増え、学校からの依頼が増えました。そのことにより、昨年と比較し、関連機関へ繋いだケースが増えています。具体的な連携先としては社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーや保健センター等です。

学校教育課（健やか輝き支援室及び教育臨床研究エリア）

・各学校の児童生徒の声を受け止め、微かな変化に気づくことができるよう、市費スクールカウンセラー4人を市内全中学校に配置し、健やか輝き支援室心理士の指導の下、各学校の教育相談体制を充実させます。

・併せて、学校からの相談に電話一本で駆けつけるなど、初期対応の体制を整えるとともに、非行防止教室や薬物乱用防止教室、ネットトラブル等に対応した教室を実施しています。また、早稲田大学・淑徳大学等の大学生及び大学院生を学校に派遣することにより、児童生徒への支援を行っていきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	スクールカウンセラー学校派遣事業	所管課	学校教育課	決算額	14,329千円
	市費スクールカウンセラー4人を、市内全15中学校を中心に必要に応じて小学校にも派遣しました。市費スクールカウンセラーが行った相談件数は、のべ4,437件です。				
	直接学校において相談業務を行い、埼玉県より派遣されているスクールカウンセラーや心のふれあい相談員と児童生徒の情報を共有し、子どもの発するSOSを迅速かつ的確に受け止めるよう努めました。				
評価	児童生徒の心に寄り添う対応に努め、問題の未然防止、早期発見、早期対応につながっています。				

事業名	教育相談アドバイザー支援事業[新規]	所管課	教育センター	決算額	315千円
	複雑ないじめ問題や自殺防止など学校が抱える課題解決のため、心理・福祉・医療のそれぞれの専門家から教育委員会や学校に対して指導助言をいただくと共に、市内の全小中学校を対象に支援を行いました。今年度は5校で巡回相談（スクリーニング）を実施し、児童生徒の個に応じた支援を教師が適切に行えるようにしたり、授業における教師一人一人のよさを意識化させたりすることで、自信の回復に繋げることができました。また、教育委員会が進めている「心のエネルギープロジェクト」についても指導・助言をいただきました。				
評価	「心のエネルギープロジェクト」同様、市内中学校の3年連続の命に関わる事案を受けて、二度とこうしたことを起こさないという強い思いの下、立ち上げた事業です。活用した学校からは、「教職員の経験により児童生徒理解に個人差があるように思われた。」「この事業を活用して、児童生徒理解が深まった。」「教員の指示の出し方が変わり、児童生徒の感じ方にも変化が見られた。」との感想が寄せられるなど、児童生徒が安心して学校生活を送るための支援に繋がりました。				

事業名	健やか輝き支援事業	所管課	学校教育課	決算額	53,958 千円
評価	<p>健やか輝き支援室（心のふれあい相談員、安全安心対策推進員、生徒指導・いじめ問題対策員、心理士、いじめホットライン）では、生徒指導や心の悩み、発達障害等に関する相談、計 33,153 件に対応しました。</p> <p>生徒指導・いじめ問題対策員による非行防止、薬物乱用防止、ネットトラブル等の教室を 18 回実施しました。</p> <p>心のふれあい相談員 15 人を全中学校に、17 人を全小学校に配置し、小中学校が連携して相談活動ができるようにしました。</p> <p>「所沢市いじめ問題対策委員会」を開催し、本市の現状及びいじめ問題発生時の対応について協議しました。</p> <p>各大学と連携し、次の支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早稲田大学と連携し、児童生徒が抱える学校不応や発達障害などの困難さに対する学校の理解を深め、適切な支援につなげるため、大学院生（13 人）を学校に派遣予定でしたがコロナ禍の影響により中止しました。</li> <li>・淑徳大学と連携し、不登校児童生徒の教室復帰に向けた個に応じた支援を行うため、学生を学校に派遣予定でしたがコロナ禍の影響により中止しました。</li> </ul>				
評価	<p>児童生徒を理解するための教職員の資質向上研修や市費スクールカウンセラーの配置、課題解消に向けての専門機関との連携などを通し、教育相談体制の充実を図ることができました。</p>				

事業名	教育相談事業	所管課	教育センター	決算額	38,177 千円
評価	<p>令和 2 年度の相談ケースは、458 件（前年度は 545 件）です。不登校と性格・行動に関する相談が大半を占めていますが、約 88%（前年度は 74%）が改善しました。今年度、全校一斉臨時休業のため相談の開始が 6 月だったこともあり、ケース数としては昨年度より減ってはいますが、改善率は高くなりました。巡回相談については、前年度とほぼ同じ件数、学校に行くことができ、学校との連携を図ることができた。</p> <p>教育支援センターには 59 人が入室し、個に応じたきめ細かな支援を行うことができました。</p>				
評価	<p>教育支援センターでは、コロナ禍の影響で活動内容に制限がありましたが、進路学習や理科実験など、生徒が主体的に活動することができる指導計画を立てたことで、児童生徒が生き生きと活動する姿が見られました。また、学校に全く行くことができなかつた生徒が、相談室登校や放課後登校ができるようになるなどの成果も見られました。</p>				

事業名	就学相談事業	所管課	学校教育課	決算額	3,940 千円
評価	<p>保護者からの申込 192 件（前年度は 319 件）について、就学支援委員が児童生徒や保護者との面談及び観察、知能検査の実施等を通して、適切な就学先を決定しました。</p> <p>就学支援委員会の判断に対して、保護者がその判断と同じ就学先を希望したケースは全体の 83% でした。就学相談は、継続的に時間をかけて行われていくものであり、保護者の同意が得られないケースでも、個に応じた現状を分析しながらその児童生徒にふさわしい教育形態を判断しています。</p>				
評価	<p>保護者からの申込があつた就学相談について、就学先の決定を適切に行うことができました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

<b>主要施策</b>	<b>(1) 学校保健の充実</b>	所管課	保健給食課
-------------	--------------------	-----	-------

<b>施策の目標</b>	<p>心身の健やかな成長の土台となる「早寝・早起き・朝ごはん」等の取り組みを、機会を捉えて家庭に働きかけます。</p> <p>地域の関係機関や医師等と連携しながら、学校保健計画に基づき学校保健活動を推進し、学校環境衛生の維持と児童生徒の保健教育・保健管理の充実に努めます。</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用等を防止するための教育や性に関する指導を、家庭・地域と連携しながら、児童生徒の発達の段階に応じて効果的に行います。</p> <p>子どもたちが健康で安全な学校生活を送ることができるよう、学校における食物アレルギー対応の充実に努めます。</p>
--------------	---

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室」については、より多くの保護者や地域関係者が参加できるよう、授業参観・学校公開日に実施するよう指導し、家庭・地域と連携した薬物乱用防止教育を進めていきます。</p> <p>「性に関する指導」については、各小中学校において作成する「性に関する指導全体計画」を基に年間計画を作成し、計画的・組織的に進めるよう、各校に指導をしていきます。</p> <p>食物アレルギー対応検討委員会を年2回以上開催し、引き続き学校における食物アレルギー対応の充実に図ります。</p> <p>暑さ対策として経口補水液と熱中症指数計を購入し、各学校で活用しました。引き続き学校における暑さ対策を進めていきます。</p>
--------------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

<b>事業名</b>	<b>園児・児童・生徒健康診断推進事業</b>	所管課	保健給食課	決算額	81,461千円
評価	<p>児童生徒が健康に学校生活を過ごせるよう、学校保健安全法に基づき、小中学校では内科・歯科・眼科・耳鼻科の検診、身体測定、視力・聴力検査、結核検診、尿検査、心電図検査（小1、中1）、脊柱側弯症検査（小6）、幼稚園では内科・歯科の検診を行いました。また、児童が健康な状態で学校生活を開始できるよう、就学前年の10～11月に、就学時健康診断として、各小学校で内科・眼科・耳鼻科・歯科の検診、視力・聴力検査、体験授業を行いました。</p> <p>コロナ禍の中でしたが予定どおりに検診等を実施し、園児・児童生徒の保健管理の充実に図りました。</p>				

<b>事業名</b>	<b>児童生徒食物アレルギー対応事業</b>	所管課	保健給食課	決算額	30千円
評価	<p>児童生徒のアレルギー疾患が増加していることを踏まえ、安全で安心した学校生活を送ることができるよう、食物アレルギーに関する課題の検討や対応マニュアルを見直すとともに、より組織的な対応や校内外の連携を強化するため、「所沢市立小中学校食物アレルギー対応検討委員会」を開催しました。各校から報告された食物アレルギー発生事例を集約し、所管内で共有することで事故防止の徹底に努めました。</p> <p>各校において、重大事故の発生の防止に寄与しました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

<b>主要施策</b>	<b>(2) 学校給食・食育の充実</b>	所管課	保健給食課
-------------	-----------------------	-----	-------

#### 施策の目標

安心・安全な学校給食を安定的に提供するため、老朽化した学校給食センターの再整備及び学校給食施設の衛生管理の徹底、調理機器等の整備を進めます。

地場産物を積極的に給食の献立に取り入れたり、子どもたちが学校ファームで栽培した野菜を給食に使用したりすることで、地域への関心、生産者や作物への感謝の気持ちを養います。

栄養教諭・栄養士を中心に学校全体で、食と健康に関する指導に取り組むとともに、家庭と連携して望ましい食習慣や基本的生活習慣を身につける取り組みを進めます。

残食率の低下をめざし、献立や調理の工夫をするとともに、栄養教諭・栄養士が教職員と連携し、給食時間の指導の充実に努めます。

#### 施策の内容と今後の方向

老朽化した第3学校給食センターに代わる新たな学校給食センターを、現在廃場となっている第2学校給食センター跡地を活用し、令和6年度の完成を目指します。令和3年度も引き続き新学校給食センターの整備に当たり、事業者選定に向けて事務を進めます。

栄養教諭・栄養士は地場産物を積極的に給食の献立に取り入れ、地域への関心、生産者や作物への感謝の気持ちを育てています。特に11月の「彩の国ふるさと学校給食月間」では地場産物をPRした献立内容、給食だよりを作成し、地場産物が身近に感じる月間とします。

栄養教諭・栄養士が学校と十分な連携を行い、食と健康に関する指導に取り組み、給食の残食率の低減、望ましい食習慣の形成を目指します。また、学校給食センターサマーフェスタ、学校給食展、食育フォーラムなど様々な事業を充実させ、学校、家庭、地域へ学校給食への興味関心を広げ食育を推進します。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	学校給食センター再整備事業	所管課	保健給食課	決算額	58千円
評価	学校給食センター再整備事業についてPFI手法を用いて進めるにあたり、所沢市民間資金等活用事業選定委員会において審議し、PFI法に基づき特定事業として選定しました。				
評価	PFI手法を用いることにより、サービスの質の向上や財政負担の平準化などが期待できます。				
事業名	小・中学校校務支援システム改修事業 (保健管理機能追加)[新規]	所管課	保健給食課	決算額	8,748千円
評価	市内小中学校に導入されている校務支援システムの仮想化基盤の移行に合わせて、新たに保健管理機能の追加を行ったものです。				
評価	予定どおり、機能を追加することができました。				

事業名	学校給食食育推進事業	所管課	保健給食課	決算額	0千円
<p>令和2年度の市内小中学校の給食残食率は平均 5.46%でしたが、残食率の高い学校もあるため、献立の組み合わせの工夫や調理の研究、学校と連携した給食時間の指導等、積極的に取り組んでいきます。</p> <p>所沢産の野菜を使用した「小松菜メンチカツ」や「さつま芋パン」、お茶を使用した「お茶マーブル食パン」「ほうじ茶プリン」等を食品会社と栄養士が共同開発し、給食で提供しました。子どもたちには大好評でした。</p> <p>所沢サクラタウンのグランドオープンにちなんで、「小説 天気の子」に登場するメニューを「特別給食献立」として市内全小中学校に提供しました。</p> <p>「学校給食センターサマーフェスタ」「食育フォーラム」及び「学校給食展」についてはコロナ禍の影響で、中止としました。</p>					
評価	<p>新型コロナウイルス感染症対策をしながらの給食時間の中「特別給食献立」は子どもたちの記憶に残る給食となりました。</p>				
事業名	清進小学校給食室空調設備改修事業[新規]	所管課	保健給食課	決算額	15,840千円
<p>清進小学校の給食室(配膳室以外)に空調設備が設置されてなかったことから、労働環境の改善のため空調設備の設置を行ったものです。</p>					
評価	<p>予定どおり、工事を完了することができました。</p>				
事業名	三ヶ島小学校給食室公共下水道接続事業[新規]	所管課	保健給食課	決算額	42,515千円
<p>公共下水道が整備されたことから、三ヶ島小学校の公共下水道接続工事に併せて給食室の公共下水道接続工事を行ったものです。</p>					
評価	<p>予定どおり、工事を完了することができました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします
<b>主要施策</b>	<b>(3) 安全・防災教育の推進</b>
	所管課 学校教育課

#### 施策の目標

学校や家庭、地域の実態に即した指導計画の作成と組織的な安全教育の推進を図ります。

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、安全教育の授業改善を行います。

児童生徒自身に安全を守るための能力を身につけさせる安全教育の充実と、児童生徒の生活の場である学校の安全管理体制の充実を図ります。

#### 施策の内容と今後の方向

各学校で、学校や家庭、地域の実態に即した学校安全計画を作成し、組織的・計画的に安全教育を行いました。学校だよりやホームページ等で周知を図り、地域行事への積極的な参加を促し、児童生徒の地域の防災訓練への参加意欲と参加率を高めるように努めました。

防犯カメラの活用やスクールガードとの連携、地域と協力して行う生徒指導パトロール等を通して多くの目で児童生徒を見守るとともに、教職員研修や安全点検を充実させ、関係部署と連携してさらに安全な学校をつくっていくことが必要です。

安全教育の授業改善について、より体験的（消防署との連携）で必然性の高い（予告なしの防災訓練等）学習を行うなどの工夫を引き続き行います。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	安全・安心な学校と地域づくり推進事業	所管課	学校教育課	決算額	12,671千円
	<p>令和2年度、「安全・安心な学校と地域づくり推進本部」(行政機関・警察・地域関係団体・中学校・高等学校等により組織する連絡協議会)の本部会議を2回行う予定でしたが、コロナ禍の影響により、1回目は書面開催、2回目は中止としました。令和3年度は感染症の状況をふまえながら、1回開催する予定です。近年、本市で発生している児童生徒の事件・事故の概要、中学校区ごとに組織する推進支部の活動、関係行政機関の活動について情報を共有し、下記の取組に生かしています。</p> <p>本事業の大きな4本の柱として、「いじめ撲滅」「交通事故防止」「地域行事への主体的参加」「地域ぐるみのあいさつ運動」を掲げています。例年、推進支部ごとに、登下校の見守り、校外パトロール、防犯講習会、あいさつ運動等の活動を行っています。</p> <p>【児童生徒の地域行事への参加人数】 令和2年度 延べ1,092人（令和元年度 延べ34,631人）</p> <p>【推進員の活動状況】学校訪問・地域での支援 令和2年度 延べ679回（令和元年度 延べ706回）</p> <p>【支部会議の開催状況】 令和2年度 1回（令和元年度 28回）</p>				
評価	<p>コロナ禍の影響により、活動の一部に制約がありましたが、経験豊富な推進員が各学校を巡回するなど、きめ細かな支援ができました。</p>				

基本方針	1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
基本目標	3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

<b>主要施策</b>	<b>(4) 体力の向上</b>	所管課	スポーツ振興課
-------------	------------------	-----	---------

<b>施策の目標</b>	<p>体力テストの分析結果を子どもと保護者にフィードバックすることで、個々の課題を明確にし、目標を持たせることで、子どもたちの運動意欲を高めます。</p> <p>スポーツ大会や教室等を実施するとともに、休み時間や放課後等に外遊びができる環境づくりに努めます。体を動かすことの楽しさを感じるにより、体力向上をめざすとともに運動好きな児童生徒の育成に努めます。運動部活動の安定した運営や生徒の技術力向上に取り組みます。</p>
--------------	---

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>令和2年度は、コロナ禍の影響による新体力テストの中止に伴い、中学校体力調査事業としての集計分析の業務委託を行いませんでした。令和元年度において総合評価5ランク(A~E)のうち、上位3ランク(A~C)の割合が小中学校ともにやや下降しましたが、令和3年度はコロナ禍により、さらに体力の低下が懸念されます。感染症の影響による現状把握をするとともに、中長期的に体力向上を推進するため、新体力テストの結果を踏まえ、課題種目に重点をおくとともに、体力向上推進委員と連携し、教員や児童生徒に向けて体力向上の運動例の提案や正しい計測の仕方等の周知を行っていきます。</p> <p>学校や地域と連携し、児童生徒が運動に親しむ機会を提供するとともに、専門家による専門的な指導を積極的に取り入れ、児童生徒が運動好きになり、体力向上を図れるよう提案を行っていきます。</p> <p>令和元年度における民間スイミングスクールと連携した水泳教室の実施に続き、令和2年度は航空公園運動場にて親子ティーボール教室を行い、広い人工芝のグラウンドで快適に運動を行うことができました。今後も、各種事業の参加者数増加を図るため、実施形態の工夫及び、周知の方法や回数の検討をします。また、「知る」「する」「見る」「支える」等スポーツへの様々な関わり方の提案を行っていきます。</p> <p>コロナ禍の影響により、運動する場所や人との関わりにおいても制限がありました。それを解消するため、なわとび、体操、トレーニング等の『自宅で運動に親しめる動画集』を作成し、所沢市公式YouTubeチャンネルに掲載しました。引き続き、一人でも仲間との関わりや運動の楽しさを感じることができるよう、バリエーションを増やしたり、他のコンテンツを活用したりするなど、検討していきます。</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を図るため、パラリンピック種目(ゴールボール)の体験事業や各種情報の発信、選手の特別顕彰の贈呈、選手の強化・育成を進めます。</p>
--------------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	地域力活用運動好きな子ども育成事業	所管課	スポーツ振興課	決算額	50千円
<p>児童生徒が運動する楽しさや喜びを感じられる機会づくりと、子どもを運動好きにし、体力向上を図るため、地域のスポーツ関係団体と連携して、所沢市のスポーツ資源や特色を生かした次の事業を行いました。</p> <p>【実施結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親子手打ち野球&amp;ティーボール教室 親子合計 74組 159人 航空記念公園運動場</li> <li>小学校対抗駅伝競走大会 コロナ過のため中止</li> <li>埼玉ブロンコスふれあいキャラバン 小学校1校 参加者 151人</li> <li>埼玉西武ライオンズベースボールチャレンジ 小学校1校 参加者 142人</li> </ul>					
評価	<p>コロナ禍の影響により小学校対抗駅伝競走大会は中止しましたが、感染予防対策をした上で児童の体力向上や運動好きな児童育成のための各種事業を実施することができました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

<b>主要施策</b>	<b>(1) 学習機会の充実</b>	所管課	生涯学習推進センター
-------------	--------------------	-----	------------

<b>施策の目標</b>	<p>市民の学習ニーズの多様化・高度化に対応し、誰もが気軽に参加できる講座や、資格取得・キャリアアップをめざす講座などの企画立案に努めてまいります。</p> <p>多様な主体（産・官・学・民）と連携・協力を図り、市民の生涯学習の機会の創出や講座内容の充実に取り組みます。</p>
--------------	---

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>市民の学習に対する要望の高度化、多様化に対応するため、引き続き多種多様な学習機会の提供、参加者層の拡大を目指して、様々な世代の学習意欲に配慮した事業内容の充実、コロナ禍に対応した学習環境づくり、学習情報の提供を進めていきます。</p> <p>市民の学習を支援し学習の成果を社会に還元していくことを目指し、市民活動支援センターと連携を図りながら進めていきます。</p>
--------------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	学習講座等開催事業	所管課	生涯学習推進センター	決算額	1,065千円
<p>・市民の誰もが参加でき、市民と行政が協働で企画・運営する学習の場として「市民大学」を開講しています。ここでは、現代的課題をテーマに学びを深め、同時に地域の仲間づくりを進めて、各人の自立した地域参加を応援しています。</p> <p>【受講者数等】27期2年次グループワーク 回数：15回 受講者数：54人 延べ受講者数：1,034人（企画委員含む 令和3年4月現在）</p> <p>28期はコロナ禍の影響により開講延期</p> <p>・学習の成果により習得した知識や技術を、知識や技術を求めている地域の方に役立ててもらうことを目的とした「ボランティア人材バンク」について、例年、人材バンク制度の周知や知識を必要とする人材の出会いのきっかけの場として、市役所ロビーにおいて人材バンクフェアを開催していましたが、コロナ禍の影響により延期いたしました。（令和3年度に2回開催予定）</p>					
評価	<p>コロナ禍の影響により市民のニーズに対応した学習や人材交流の場を提供することが困難でしたが、新しい生活様式として、今後はコロナ禍に対応した学習環境づくりを進めていきます。</p>				



基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

<b>主要施策</b>	<b>(2) 学習活動の支援</b>	所管課	生涯学習推進センター
-------------	--------------------	-----	------------

<b>施策の目標</b>	<p>市ホームページや生涯学習情報紙などの情報ツールを効果的に活用し、生涯学習情報を積極的に発信することで、市民の学習活動を支援します。</p> <p>市民の学習活動を多方面からサポートする事業を実施するとともに、相談体制の充実を図ります。</p> <p>市政全般について市職員が説明し市政に関する理解を深めてもらう「まちづくり出前講座」をはじめ、地域課題をテーマとした学習会を実施し、まちづくりにつながる生涯学習の推進に努めます。</p>
--------------	--

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>生涯学習情報紙について、市民の自主的な活動を引き続き情報提供していくとともに、所沢市で実施している生涯学習に関連する事業の情報を発信していきます。</p> <p>市民の学習活動を支援する IT 相談について、類似の民間による有償サービスとは違い、相談者も相談員も市民であるため、市民目線で気軽に相談できる地域社会の福祉的なサポート事業として進めていきます。</p> <p>市民と行政の協働によるまちづくりにつながるよう、「まちづくり出前講座」を実施し、学習を通じて市政への理解を深めていきます。</p>
--------------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

<b>事業名</b>	<b>生涯学習情報紙発行事業</b>	所管課	生涯学習推進センター	決算額	16,815 千円
生涯学習に関する情報提供と発信を目的に生涯学習情報紙「翔びたつひろば」を広報ところざわへの折込により毎月全戸配布しました。総発行部数は、1,886,210 部でした。					
評価	「翔びたつひろば」を通じて、多くの市民に情報提供ができました。				

<b>事業名</b>	<b>IT 相談事業</b>	所管課	生涯学習推進センター	決算額	254 千円
パソコン操作に不慣れな高齢者をはじめとするパソコンを学習する個人の相談について、基本的な操作等を支援する事業として定着しています。					
相談日は、第 1～4 火曜・金曜日（午前・午後）で、108 回実施し、相談者数は 307 人でした。					
評価	市民目線からのサポートを行い、市民の IT スキル向上の一助となることができました。				

<b>事業名</b>	<b>生涯学習まちづくり出前講座事業</b>	所管課	生涯学習推進センター	決算額	482 千円
市政を広く市民に周知し、市政に関する理解を深めていただき、市民と行政の協働による「生涯学習によるまちづくり」につながることを願って「生涯学習まちづくり出前講座」を行いました。コロナ禍の影響により、感染対策が取られていることが確認できる公共施設のみの開催といたしました。申込件数は 13 件、7 回開催し、参加者総数は 96 人でした。					
評価	市職員が市政に関する情報を講座形式で説明する事業ですが、令和 2 年度はコロナ禍の影響によりソーシャルディスタンスを保つ関係上、予定どおりに実施できませんでした。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

<b>主要施策</b>	<b>(3) 学びの成果の活用</b>	所管課	生涯学習推進センター
-------------	---------------------	-----	------------

#### 施策の目標

自分の持っている様々な知識や技術を役立てたい人を登録し、学習をしたい市民に紹介する「ボランティア人材バンク」制度の周知と更なる活用の促進を図ります。

市民の様々な学習活動が学びの絆となり広がっていくための場の創出として、市民の学習活動の紹介、各種交流事業の促進、ボランティア活動の推進や社会教育施設の運用の充実に努めます。

#### 施策の内容と今後の方向

ボランティア人材バンクの制度の周知と活用促進を図るため、PR イベントの実施とともに、利用を希望している市民に、登録講師の講座が体験できるような場を設けていきます。また HP の充実やメニュー等の定期的な更新をしていきます。

市民の自主的な活動による、地域で活躍する人材・企業などを紹介する講演会や、地域の歴史・文化を伝える人材を育成する事業を支援していきます。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	生涯学習ボランティア人材バンク運営事業	所管課	生涯学習推進センター	決算額	539 千円
評価	<p>「ボランティア人材バンク」について、制度の活用促進を目指して、人材バンク登録者と生涯学習推進センターの連携強化を図るため、毎年1回市役所ロビーにおいて人材バンクフェアを開催していましたが、令和2年度はコロナ禍の影響で開催せず、令和3年度に延期しました。(令和3年度に2回開催する予定です。)</p> <p>コロナ禍の影響で思うように PR が出来ませんでした。今後コロナ禍に対応した人材バンクフェアを開催し制度の活用促進につなげていきます。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます		
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます		
主要施策	(4) 人権教育の推進	所管課	社会教育課、学校教育課

施策の目標	<p>個人の尊厳が守られ、誰もがいきいきと暮らせる明るい地域社会の実現をめざし、あらゆる世代が人権問題を考え理解し、相手の立場を考えて行動できるよう、関係機関とも連携した学習の場を充実し、一人ひとりの人権意識の高揚を図ります。</p> <p>市内小中学校の教育活動を通じて、一人ひとりを大切にする教育を推進するとともに、基本的人権を尊重し、人権問題を理解し解決しようとする子どもの育成を目指します。</p>
-------	---

施策の内容と今後の方向	<p>市民一人ひとりの人権意識の高揚は、人づくり・まちづくりの視点からも重要です。人権尊重社会の実現は国際的な課題となっており、様々な人権課題について学習し、人権問題に対する理解と認識を深めるため、関係機関とも連携して、今後とも継続していく必要があります。</p> <p>「いじめ防止対策推進法」をもとに平成26年2月28日に策定した「所沢市いじめ防止基本方針」を令和元年12月に一部改定しました。このことを受け、小中学校における各学校のいじめ防止基本方針の改定も行い、実効性を高めるための具体的な取組となるようにしていきます。</p> <p>埼玉県で行っている11月のいじめ撲滅強調月間では、市内小中学校がそれぞれ考えた、いじめを根絶していくための啓発活動について取り組み、人権教育の推進を図っています。</p> <p>いじめを未然に防止するためには心の教育を一層充実させる必要があります。道徳教育の充実を図ることによって、児童生徒に他者の痛みを共有できる資質や生命を尊重する心を育てる必要があります。</p>
-------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	人権教育推進事業	所管課	社会教育課	決算額	571千円
評価	<p>所沢市人権教育推進協議会と連携して、人権意識啓発のため、人権教育講座の開催、リーフレットの配布、人権啓発映像資料の貸出などを実施しました。</p> <p>【人権教育講座】家庭教育学級人権教育合同講座（計5回実施 参加人数合計160人） 人権教育ブロック別研修会（計4回実施 参加人数合計97人）</p> <p>【啓発DVD貸出】小中学校での教員研修等（延べ3,153人視聴）</p>				
評価	コロナ対策を講じ、人権教育講座・研修会を開催し、人権教育の推進に努めました。				

事業名	学校人権教育啓発資料発行事業	所管課	学校教育課	決算額	173千円
評価	<p>各校から人権に関する作文を募集し、編集委員会で選定された作品をまとめた人権文集「ともだち」を発行・配布することで、小中学校における人権教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性を醸成することに努めました。この人権文集「ともだち」は小中学校の全学級に配布し、児童生徒が日頃から手に取ることができるようにするとともに、道徳の学習等でも活用しました。また、市内の公共施設で閲覧に供して、広く市民への啓発も行いました。</p> <p>市内小中学校の各学級に人権文集を配布したことで、日常的に児童生徒が人権感覚を高めることができるようにしました。</p> <p>配布時期を早められるよう準備を進め、学校現場において人権文集「ともだち」が、より活用されるようにしました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

<b>主要施策</b>	<b>(5) 公民館事業の充実</b>	所管課	社会教育課
-------------	---------------------	-----	-------

#### 施策の目標

市民のニーズを把握し、地域の中の学習拠点施設として、地域の様々な課題や健康・生活文化などの学習機会を提供します。

市民が気軽に集える地域の居場所としての公民館を目指し、市民と協働で取り組みながら、人とのふれあいや学びを通してまちづくりに参加する人材を育成します。

サークル活動等の市民の自主的な活動を支援するとともに、社会教育関係団体や関係機関とのネットワークづくりを推進し、学校・家庭・地域が連携した地域の教育力の向上を図ります。

#### 施策の内容と今後の方向

市民主体の地域づくりを進めるため、市民の学びと豊かな人間関係を築く場として、公民館の必要性が注目されています。コロナ禍の影響が続く中で、新たに見えてきた地域課題に向き合う事業の充実が求められています。

○公民館を補助執行している「まちづくりセンター」の担当職員の業務が増加傾向にあること、また、ほぼ全ての館で公民館担当がコミュニティ推進も兼務し負担が増えていることから、負担軽減が課題となっています。主催事業や地域住民のサークル活動を通じて、地域における社会教育の継続・発展の役割を担っています。

○市民ニーズを把握した主催事業の実施や学習情報を提供することで、地域住民の学習意欲を高め、学習の成果が地域での実践に結びつけられることを目指します。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	公民館主催事業	所管課	社会教育課	決算額	1,709千円
<p>コロナ禍の影響で、予定していた多くの主催事業が中止となりましたが、感染症対策を講じながら、コロナ禍でもできるよう工夫して事業を実施し、市民の主体的な学習や文化・スポーツ活動を支援しました。</p> <p>【主催事業数】全館合計 118 事業</p>					
評価	市民の学習意欲向上を促し、交流機会を提供することができました。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	2 誰もが、いつまでも <sup>からだ</sup> 身体を動かしたくなるまちをめざします

<b>主要施策</b>	<b>(1) 市民の健康・体力づくりの推進</b>	所管課	スポーツ振興課
-------------	---------------------------	-----	---------

<b>施策の目標</b>	<p>スポーツ大会・教室等について、生涯を通してスポーツ（軽運動、レクリエーション等含む）に親しむきっかけづくりとなるよう、市民ニーズを踏まえ、企画内容の充実に努め、子どもから高齢者まで障害のある人もない人も、ライフステージ等に応じたスポーツの楽しさを普及します。</p> <p>誰でも、どこでも手軽に行うことができる市独自の健康体操「とこしゃん体操」の普及に努めるなど、スポーツを通じた健康づくりを推進します。</p>
--------------	--

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>第2次所沢市スポーツ推進計画の基本理念である「市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、<sup>からだ</sup>身体を動かしたくなるまち」を目指すため、スポーツ情報の発信に努め、あらゆる世代が参加できる教室や大会を充実させます。</p> <p>「とこしゃん体操」の効果的な普及の方法を検討し、より多くの市民の健康づくりを推進します。</p>
--------------------	---

#### 主な事業の実施状況・評価

<b>事業名</b>	<b>所沢シティマラソン大会開催事業</b>	所管課	スポーツ振興課	決算額	0千円
評価	<p>令和元年度は、メットライフドーム周辺において、第30回の記念大会を開催しましたが、令和2年度の大会は、コロナ感染症拡大を防止する観点から、開催を中止しました。</p> <p>令和2年度は開催を中止しましたが、今後大会を開催する際はメイン会場がメットライフドームに戻る予定のため、狭山湖堰堤上とメットライフドームの大きな2つの観光名所を使用した魅力ある大会を開催します。</p>				
<b>事業名</b>	<b>スポーツ教室開催事業</b>	所管課	スポーツ振興課	決算額	193千円
評価	<p>さわやか健康体操教室、手軽に健やか体操教室・・・、男性いつまでも元気体操教室・・・、健康体操指導者養成講座、健康体操指導者スキルアップ講座、健康体操指導者研修会を実施しました。コロナ禍の影響で、初心者小学生新体操教室は中止いたしました。</p> <p>【参加者数】延べ 920人</p> <p>コロナ禍の影響で、例年どおりの活動はできませんでしたが、感染防止対策を徹底した上で、事業を実施したことで、市民の体力づくりに寄与できました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	2 誰もが、いつまでも <b>からだ</b> を動かしたくなるまちをめざします

<b>主要施策</b>	<b>(2) 競技会場の確保や交流機会の充実</b>	所管課	スポーツ振興課
-------------	----------------------------	-----	---------

#### 施策の目標

身近なスポーツ施設で、プロや実業団等の迫力あるプレーを観戦できる機会を増やし、市民のスポーツへの関心・意欲を高めます。

所沢市民体育館がゴールボール<sup>\*1</sup>のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設<sup>\*2</sup>に指定されたことから、国際競技力向上に資する活動を効果的・効率的に実施することができるよう環境整備を行います。

東京オリンピック・パラリンピック総合推進室や埼玉県オリンピック・パラリンピック課と連携し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて機運醸成を図るとともに、応援イベントや選手との交流、文化的なふれあいなどをきっかけにスポーツへの関心・興味を高めます。小中学生がオリンピック・パラリンピックの感動を享受できるように、学校における教育活動の一環として「見るスポーツ」を奨励します。

<sup>\*1</sup> ゴールボール…視力に障害がある方を対象に考案された球技。アイシェード(目隠し)を着用した1チーム3名のプレーヤー同士が、コート内で鈴入りボールを転がすように投球し合って味方のゴールを防御しながら相手ゴールにボールを入れることにより得点し、一定時間内の得点の多少により勝敗を決するもの。

<sup>\*2</sup> ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設…ナショナルトレーニングセンター(東京都北区)では対応できない、冬季、海洋・水辺系、屋外系の競技及び高地トレーニングについて、トップアスリートの強化活動の場所の確保を目的とし、指定されたトレーニング施設。

#### 施策の内容と今後の方向

所沢市民体育館が、ゴールボールのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設として指定を受けていることから、引き続き選手の練習環境を整えるとともに、日本ゴールボール選手権大会等の環境整備を行います。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設活用事業	所管課	スポーツ振興課	決算額	1,293 千円
<p>平成 29 年に所沢市民体育館がスポーツ庁から東京パラリンピック競技種目であるゴールボールのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設として指定されたことに伴い、スポーツ庁から業務委託を受け、トップアスリートが国際競技力向上に資する活動を効果的・効率的に実施することができるよう、施設の環境整備を引き続き行いました。</p> <p>令和 2 年度の練習予定日数は 95 日でしたが、コロナ禍の影響で、感染予防対策を徹底した上での利用となり、使用日数は 47 日となりました。</p>					
評価	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上での会場利用及びトレーニングを進めることができました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	2 誰もが、いつまでも <sup>からだ</sup> 身体を動かしたくなるまちをめざします

<b>主要施策</b>	<b>(3) スポーツに触れる機会の充実</b>	所管課	スポーツ振興課
-------------	--------------------------	-----	---------

#### 施策の目標

スポーツで優秀な成績を収めた個人や団体、長年にわたりスポーツの発展に寄与した方々に対する顕彰を通じ、スポーツへの意欲の高揚を図ります。

広報紙や市ホームページ等の多様な広報媒体を活用して、スポーツに関する情報提供を行うとともに、わかりやすい情報の発信に努めます。

スポーツによる地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブの支援を行うなど、地域コミュニティや社会参加のきっかけづくりとなるよう地域に根ざした事業に取り組みます。

#### 施策の内容と今後の方向

スポーツ活動におけるモチベーション向上の一助として、顕彰制度を運用し、アマチュアスポーツの競技大会において優秀な成績を収めた選手や、長年にわたりスポーツの発展に寄与した方々に対して、その栄誉を顕彰します。

スポーツイベントや教室、大会等、市民一人ひとりの多様なニーズに応じた情報が得られるよう、多様な広報媒体を活用した情報提供などにより、スポーツに親しむきっかけづくりに努めます。

#### 主な事業の実施状況・評価

<p>コロナ禍のため令和2年度所沢市スポーツ大賞表彰式を縮小開催し、スポーツ大会等において優秀な成績を収めた者や、スポーツの発展に寄与した者に対し、その栄誉をたたえ顕彰しました。</p> <p>(奨励賞2人、優秀団体賞1団体)</p> <p>所沢市健康体操教室一覧表をHP上に公開し、健康づくりに興味のある市民に対する利便性を図りました。</p>	
評価	<p>コロナ禍の影響で各種大会等が中止となる中で、各受賞者を、スポーツに携わる方々の模範として顕彰することができました。</p>

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

<b>主要施策</b>	<b>(1) 図書館サービスの向上</b>	所管課	所沢図書館
-------------	-----------------------	-----	-------

#### 施策の目標

図書館が持つ情報資源の利用促進を図るとともに、図書館の情報提供能力の向上をめざします。

レファレンスサービス等の充実により、市民への課題解決支援サービスの充実を図ります。

インターネット予約、コンビニエンスストアなどでの図書等取次、他市の図書館との相互利用等について、更なる利便性の向上をめざします。

対面朗読や大活字本等の資料整備など、障害のある方への図書館利用サービスの充実に努めます。

関係機関及び関係団体との連携・協力を図り、市民の課題解決に役立つ情報の提供を行います。

図書館電算システムの安定的な運用と、図書館ホームページのアクセシビリティ<sup>\*</sup>の向上に努め、利用者の利便性の向上を図ります。

本館による一元化した管理のもとで、全館良質なサービスの提供に努め、利用者の利便性の向上を図ります。

\* アクセシビリティ・・・製品やサービスに対するアクセスのしやすさを表し、それらの機能などを使用できることを保証すること。

#### 施策の内容と今後の方向

コンビニエンスストア図書等取次事業において取次店舗拡大を図るため、コンビニエンスストア本社及び店舗との交渉を進めます。また、更なるサービス拡大に向け、取次業務が可能な施設等の調査・交渉を進めます。

対面朗読や郵送貸出サービスの利用拡大を図り、誰もが本に親しめる環境づくりに努めます。

図書館電算システムの安定的な運用に努め、利便性の向上を図ります。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	所沢図書館外壁補強事業 [ 新規 ]	所管課	所沢図書館	決算額	71,483 千円
老朽化する所沢図書館本館について、施設の安全上適正な管理・運営を図るため、外壁の改修工事を行いました。					
評価	施設の安全上適正な管理に努め、図書館施設の安全性も高まりました。				

事業名	所沢図書館分館施設管理運営事業	所管課	所沢図書館	決算額	290,218 千円
運営及び施設管理状況等については、館長会議及び担当者間の連絡会議の開催や、本館職員による指定管理会社本社、各分館への定期的なモニタリングなどを実施し、安定した運営が継続できるよう点検等を行っています。					
令和2年度は指定管理者による運営に移行してから、通算9年目に入りました。今まで積み上げてきた実績をもとに、引き続き、市民サービスの向上を図るため、自主事業の実施や、所沢分館・新所沢分館での平日夜間開館の実施、全ての分館での祝休日開館などを行いました。					
評価	定期的なモニタリングや点検等により、安定した市民サービスを提供することができました。				



事業名	コンビニエンスストア図書等取次事業	所管課	所沢図書館	決算額	12,287 千円
<p>図書館の開館時間内での利用や来館が困難な市民に向け、コンビニエンスストア図書等取次事業を継続して実施しました。感染症拡大防止による緊急事態宣言下に約 2 か月間の配送中止期間がありましたが、それ以外の期間においては、円滑な配送ができるよう全館で統一したマニュアルに基づき業務を実施しました。</p> <p>【年間貸出点数】  平成 30 年度 44,443 点、令和元年度 45,366 点、令和 2 年度 39,877 点</p> <p>【取次店舗所在地】(令和 2 年度、7 店舗)  くすのき台 2 丁目、西所沢 1 丁目、松葉町 (2 店舗)、牛沼、本郷、糎谷</p>					
評価	市内コンビニエンスストア 7 店舗でのサービスを維持しています。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

<b>主要施策</b>	<b>(2) 生涯にわたる読書活動の推進</b>	所管課	所沢図書館
-------------	--------------------------	-----	-------

#### 施策の目標

様々な理由で図書館利用が困難な方にも、本に親しめる機会と環境づくりに努めます。  
 図書館 HP や広報紙を活用して、図書館利用の促進を図ります。  
 講演会、講座等の集会行事を開催し、読書活動の推進に向けた啓発に努めます。  
 市民との協働による事業の開催等により、読書活動の推進に努めます。

#### 施策の内容と今後の方向

図書館 HP を活用した広報や情報提供など、Web サービスを拡充し、利便性の向上を図ります。  
 非来館型サービスの一つとして、高齢者施設・地域の団体等への出張おはなし会の実施の拡充を目指します。  
 講演会、講座等の集会事業を実施するとともに、関連図書の展示を行い、市民の読書活動の推進を目指します。  
 市民による実行委員会の企画運営で図書館まつりを実施します。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	図書館利用推進事業	所管課	所沢図書館	決算額	10,988 千円
	<p>図書館利用の促進を図るため、図書館 HP のデザイン変更、機能向上に努めました。            感染症拡大防止のため、高齢者施設・地域の団体等への出張おはなし会は実施しませんでした。高齢者ケアに役立つ本や大きな活字の本のリストを作成し、来館者や高齢者施設等に配布しました。</p>				
評価	<p>市制 70 周年を記念し、感染症予防対策を徹底したうえで、図書館まつりを開催し、好評を得ました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

<b>主要施策</b>	<b>(3) 資料収集と蔵書構成の充実</b>	所管課	所沢図書館
-------------	-------------------------	-----	-------

<b>施策の目標</b>	<p>市民に役立つ情報を提供し、知的財産である貴重な資料を次の世代に伝えるという公共図書館の役割を果たすため、機能を十分に発揮できる種類と量の資料の収集・整備を継続して進めます。一般・児童・青少年図書、新聞・雑誌、専門書、ビジネスや健康医療図書、視聴覚資料、データベースなど、あらゆる分野の充実に努めます。</p> <p>所沢を中心とした地域のあらゆる分野にわたる郷土資料の遡及・網羅的な収集に努め、市民への資料提供を行います。</p>
--------------	--

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>市民の課題解決に役立つ質の高い資料・情報源を収集するため、幅広い分野にわたって資料の選定を行います。また、関係機関と連携した展示、郷土・行政資料、ビジネス支援・健康医療に関するコーナーの資料充実等を行い、市民への情報提供に努めます。</p> <p>適切な管理のもと、新鮮で調和のとれた蔵書構成を維持し、利用状況、利用実態等を踏まえ、変化に対応した蔵書構成を構築していきます。</p>
--------------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

<b>事業名</b>	<b>図書資料収集・整理・保存事業</b>	所管課	所沢図書館	決算額	76,446 千円
<b>評価</b>	<p>郷土資料及び行政資料等については、関連機関や市役所各課に資料提供を呼びかけるとともに、次世代へとつなく貴重資料として保存していく必要性について周知し、収集及び保存に努めました。</p> <p>図書資料については、市民の多様なニーズに応えられるよう、資料選定モニターの意見も活用しつつ、検討会議を開催し、図書資料の購入、その他寄贈資料などを受け入れ、収集及び整理に努めました。</p> <p><b>【郷土資料年間所蔵数】</b></p> <p>平成 30 年度 26,264 点、令和元年度 27,590 点、令和 2 年度 28,695 点</p> <p>資料保存の必要性について周知し、各種資料を収集することができました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

<b>主要施策</b>	<b>(4) 子どもの読書活動の推進</b>	所管課	所沢図書館
-------------	------------------------	-----	-------

<b>施策の目標</b>	<p>生涯にわたり読書に親しむには、子どもの頃の読書習慣や読書環境が重要です。すべての子どもが、あらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、「所沢市子どもの読書活動推進計画」を推進します。</p> <p>読書のきっかけとなる様々な場や機会を提供し、読書を行う習慣を身につけることができるよう、読書環境の整備・充実を図ります。</p> <p>家庭、地域、学校や図書館等が相互に連携・協力し、子どもの自主的な読書活動を支援・推進するための体制を整備します。</p> <p>子どもの読書活動に対する理解を深め推進するため、子どもだけではなく保護者をはじめとする周りの大人に対しても、関心を高めるための普及・啓発活動を展開します。</p>
--------------	---

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>「おはなし会」等の子ども向け事業、学校との連携事業等、地域に密着した事業の拡大を図っていきます。平成 24 年度から、分館を指定管理者による運営に移行しましたが、本館・分館全 8 館において、引き続き均質で質の高いサービスを提供できるよう、本館が中心となって調整を図っていきます。</p> <p>平成 31 年 3 月に策定した「第 3 次所沢市子どもの読書活動推進計画」に従い、関係機関と連携しながら子どもの読書活動を推進していきます。</p>
--------------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	子どもの読書活動推進事業	所管課	所沢図書館	決算額	4,744 千円
	<p>「おはなし会」や乳幼児向けの「親子おはなし会」等の行事を感染症対策を行いながら全館で開催しました。令和 2 年度の子ども向け行事の大人・子どもの合計参加者数は 4,049 人で、本館・分館全 8 館の均質なサービスを維持しています。</p> <p>小学校 3 年生へのブックトーク、学校への団体貸出、特別支援学級へのおはなし会訪問など、可能な範囲で学校との連携事業を推進しました。</p> <p>関係機関との連携を図り、こども支援センター（3 回）や、まちづくりセンターで出張おはなし会を行いました。</p> <p>緊急事態宣言下の臨時窓口開設中に「児童書おたのしみセット」を貸出することで子どもの読書活動に寄与しました。</p>				
評価	<p>小 2・小 5・中 2 の児童生徒に対し行っている子どもの読書アンケートで、1 人 1 か月あたりの平均読書冊数が、小 2 で 7.4 冊から 7.8 冊へ、中 2 で 3.0 冊から 3.2 冊へ増加しました。しかし、小 5 では 5.4 冊から 5.3 冊へ減少したことから、更に読書活動を推進していく必要があります。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にしふるさと所沢の魅力を高めます

主要施策	(1) 文化財の保存・活用・調査	所管課	文化財保護課 生涯学習推進センター
------	------------------	-----	----------------------

施策の目標	<p>文化財を次世代に継承するため、これらを記録・保存し、適切な保存管理に取り組みます。また、県指定史跡「滝の城跡」の遺構の保存と史跡整備の実施に向けた検討を進めます。</p> <p>文化財をより身近な存在に感じてもらい、大切に守り伝える心を育むため、文化財展等の公開活用事業をはじめ、様々な活用策を実施して文化財の価値や魅力を周知します。また、観光や文化芸術など、関連性が高まる分野との連携について検討します。</p> <p>指定文化財等の現状調査を継続し、文化財の価値を維持するとともに、学術的な研究を行い、その結果の情報発信を行います。</p> <p>国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」保護のための事業を継続して実施します。</p>
-------	--

施策の内容と今後の方向	<p>指定文化財の候補案件のうち、「天正十九年中根伝七郎宛徳川家康朱印状」と「木造阿弥陀如来及び両脇侍像」の2件について文化財保護委員会から指定の答申があったため、その手続きを進め、公開の機会も設けます。</p> <p>文化財情報誌「ところざわ文化遺産」では、「茶業農家の衣生活資料」・「八雲神社祭礼用具附箱十二合」・「旗本宇佐美家・久貝家の墓」・「旗本中根氏の墓」・「旗本花井氏の墓」・「旗本久松氏の墓」を取り上げました。</p> <p>埋蔵文化財では、土地区画整理事業地内の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）で埋蔵文化財の有無を確認する確認調査と記録保存のための発掘調査を今後も継続して実施する必要があります。また、県指定史跡「滝の城跡」の発掘調査をまとめた報告書を刊行しましたので、成果をわかりやすく公開しつつ、さらに調査を進めるなど、史跡整備の実施に向けた検討を進めます。</p> <p>埋蔵文化財調査センターでは、コロナ禍の影響で「埋文まつり」の中止、団体見学の制限等により、文化財公開の機会が減少しましたが、十分な感染対策を施したうえで276人の児童生徒が施設見学を通して文化財に触れました。</p> <p>国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」を1,729匹人工増殖したことで、個体数の維持を図っています。今後は個体数の維持だけでなく、「生物多様性所沢戦略」のモデルプロジェクトの実践を目指します。</p> <p>令和3年度から新規事業として「歴史的建造物整備活用事業」と「鈴木家住宅調査事業」を開始します。</p>
-------------	---

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	北秋津・上安松土地区画整理事業地内 埋蔵文化財調査事業	所管課	文化財保護課	決算額	11,385千円
	<p>土地区画整理事業地内で記録保存の発掘調査と埋蔵文化財の有無を確認する確認調査（試掘）を行いました。</p> <p>【発掘調査】</p> <p>阿間巖下遺跡第2次調査 令和2年7月1日～11月12日</p> <p>面積 3,450㎡</p> <p>検出遺構 竪穴住居跡4軒、集石土坑3基、土坑17基（縄文時代中期）</p> <p>出土遺物 縄文式土器片、石器</p> <p>【確認調査】</p> <p>北秋津・上安松土地区画整理確認調査 令和2年6月1日～令和3年3月22日</p> <p>面積 9,923㎡</p> <p>検出遺構 検出されませんでした。 出土遺物 出土しませんでした。</p>				
評価	竪穴住居跡、集石土坑、土坑（縄文時代中期）を発掘調査により記録保存しました。				

事業名	上安松・下安松西地区土地区画整理事業地内 埋蔵文化財調査事業 [ 新規 ]	所管課	文化財保護課	決算額	2,590 千円
<p>旧暫定逆線引き地区である上安松・下安松西地区土地区画整理事業地内に存在する山際遺跡、下安松遺跡を含む 6 か所の周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）で、埋蔵文化財の有無を確認する確認調査（試掘）を行いました。</p> <p>【確認調査】</p> <p>調査対象地：区画整理事業予定地区内の公衆用道路・公園(調整池)</p> <p>埋蔵文化財対象地：山際遺跡、下安松遺跡を含む 6 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）及びその隣接地等調査</p> <p>面積 確認調査 7,980 m<sup>2</sup></p> <p>検出遺構 竪穴住居跡 17 ヶ所、土坑 6 ヶ所（縄文時代）</p> <p>出土遺物 縄文式土器片、石器等。</p>					
評価	確認調査で埋蔵文化財の有無を確認できました。				
事業名	下安松東地区土地区画整理事業地内 埋蔵文化財調査事業 [ 新規 ]	所管課	文化財保護課	決算額	1,594 千円
<p>旧暫定逆線引き地区である下安松東地区土地区画整理事業地内に存在する東京道南遺跡を含む 3 か所の周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）において、埋蔵文化財の有無を確認する確認調査（試掘）を行いました。</p> <p>【確認調査】</p> <p>調査面積 確認調査 8,232 m<sup>2</sup></p> <p>検出遺構 検出されませんでした。 出土遺物 出土しませんでした。</p>					
評価	確認調査で埋蔵文化財の有無を確認できました。				
事業名	三ヶ島工業団地周辺地区土地区画整理事業地内 埋蔵文化財調査事業 [ 新規 ]	所管課	文化財保護課	決算額	3,387 千円
<p>三ヶ島工業団地周辺土地区画整理事業地内に存在する周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）である No.143 遺跡とその隣接地において、埋蔵文化財の有無を確認する確認調査（試掘）を行いました。</p> <p>【確認調査】</p> <p>調査対象地：三ヶ島工業団地周辺地区土地区画整理事業予定地区のうち調整池等</p> <p>埋蔵文化財対象地：No.143 遺跡・No.143 遺跡隣接地</p> <p>調査面積 確認調査 7,774 m<sup>2</sup></p> <p>検出遺構 検出されませんでした。 出土遺物 出土しませんでした。</p>					
評価	確認調査で埋蔵文化財の有無を確認できました。				
事業名	若松町遺跡群発掘調査事業	所管課	文化財保護課	決算額	2,644 千円
<p>土地区画整理事業地内で埋蔵文化財の有無を確認する確認調査を行いました。</p> <p>【発掘調査】</p> <p>北程久保遺跡第 1 次調査 令和 2 年 10 月 13 日～11 月 11 日</p> <p>面積 500 m<sup>2</sup></p> <p>検出遺構 土坑（落とし穴・縄文時代中期）1 基 出土遺物 出土しませんでした。</p> <p>【確認調査】</p> <p>若松町土地区画整理事業予定地 令和 2 年 9 月 23 日～令和 3 年 3 月 8 日</p> <p>面積 13,825.31 m<sup>2</sup></p> <p>検出遺構 検出されませんでした。 出土遺物 出土しませんでした。</p>					
評価	土坑 1 基（縄文時代中期）を発掘調査し記録保存しました。また埋蔵文化財の有無を確認できました。				

事業名	埋蔵文化財発掘調査事業	所管課	文化財保護課	決算額	27,224 千円
<p>周知の埋蔵文化財包蔵地（和田遺跡・東の上遺跡）において宅地造成や住宅建築などの開発行為、及び市の公共事業が行われる前に埋蔵文化財の有無を確認する確認調査（試掘）と開発行為により埋蔵文化財が壊されるための記録保存の発掘調査を行いました。</p> <p>【確認調査】 75 件  【発掘調査】 2 件</p> <p>遺跡名：和田遺跡  検出遺構：縄文中期の住居 2 軒、土坑 50 基、落とし穴 1 基、時期不明の溝状遺構 1 条  出土遺物：縄文式土器片、須恵器片、陶器片、打製石斧、石鏃、銭貨、板碑など</p> <p>遺跡名：東の上遺跡  検出遺構：道路跡 1 条（奈良・平安） 竪穴建物跡（奈良）1 軒。  出土遺物：土師器片、須恵器片など。</p>					
評価	貴重な埋蔵文化財が破壊される前に記録保存をすることができました。				

事業名	滝の城跡整備事業	所管課	文化財保護課	決算額	2,414 千円
<p>史跡整備に必要な資料を得るために平成 23 年度から実施した発掘調査の整理作業を実施し、第 1 次から第 8 次調査の調査報告書を作成・刊行しました。</p> <p>【報告した遺構】二の郭北部・馬出郭・馬出郭虎口・三の郭・二の郭北方大型土塁・馬出郭北方大型土塁・大型土塁間堀跡・三の郭北方土塁・中堀・内堀畝部</p>					
評価	発掘調査の成果を報告することができました。				

事業名	ミヤコタナゴ保護対策事業	所管課	文化財保護課	決算額	3,007 千円
<p>種の保存を目的とした人工増殖、郷土や自然環境の学習を目的として、市内小学校（32 校）、中学校（1 校）、所沢市役所本庁舎、所沢まちづくりセンター、教育センターで展示飼育を行っています。また、上山口ミヤコタナゴ保存会との間で、ミヤコタナゴの産卵母体となる二枚貝の飼育について検討を進めました。</p> <p>【人工増殖】増殖数：1,729 匹</p>					
評価	人工増殖により個体数を維持しています。				



基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます		
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にしふるさと所沢の魅力を高めます		
主要施策	(2) 伝統芸能の維持発展	所管課	文化財保護課 生涯学習推進センター

#### 施策の目標

郷土芸能や伝統文化を次世代に継承するため、それらの保存団体を育成・支援するとともに、伝統芸能発表会等により市民への普及に努めます。

#### 施策の内容と今後の方向

市内で受け継がれている郷土芸能の維持発展のため、保存団体と連携して伝統芸能の発表の場を確保し、市民に広くPRします。

○新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、「伝統芸能発表会」の開催に向けて出演団体と協議を行いながら事業を進めていきます。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	郷土の民俗芸能支援事業	所管課	文化財保護課	決算額	0千円
<p>令和3年2月21日に「伝統芸能発表会」の開催を予定していましたが、コロナ禍の影響で中止となりました。その代替事業として、過去の「伝統芸能発表会」の記録映像をYouTube（市の広報のチャンネル）に公開し、市のHPで紹介する取り組みを行いました。</p>					
					
<p>平成29年度の「伝統芸能発表会」の様子</p>					
評価	<p>コロナ禍の影響により、「伝統芸能発表会」を中止するなど事業の縮小を余儀なくされましたが、代替の事業を実施し市民に公開することで市民に郷土の伝統芸能をPRしました。</p>				



基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にし ふるさと所沢の魅力を高めます

<b>主要施策</b>	<b>(3) 地域の文化財の掘り起こし</b>	所管課	文化財保護課 生涯学習推進センター
-------------	-------------------------	-----	----------------------

<b>施策の目標</b>	指定文化財以外の資（史）料について調査を進め、新たな文化財の掘り起こしを行います。また、既存の文化財についても調査を深め、新たな価値の発見に努めます。
<b>施策の内容と今後の方向</b>	指定文化財以外の資（史）料について、令和2年度は絵画と機織り機、近代遺跡（山口貯水池）の調査を行いました。今後も市内に残された文化財の調査に努めつつ、既存の文化財等についても新たな価値の発見とその活用に努めていきます。

### 主な事業の実施状況・評価

事業名	文化財公開活用事業	所管課	文化財保護課	決算額	1,696 千円
<p>国指定重要文化財「小野家住宅」において夏休みに小学生を主対象とした公開事業を行い、31 人の参加がありました。</p> <p>国登録有形文化財「秋田家住宅」の公開を年2回実施する予定でしたが、コロナ禍の影響により、中止となりました。今後はコロナ禍の状況をみながら、所有者と協議を行い活用の方向性を探っていきます。</p>					
					
<p>小野家住宅<sup>で</sup>なつやすみ</p>					
評価	<p>コロナ禍の影響を受けつつも、感染対策を講じて小野家住宅などを公開し、市民に文化財に親しんでもらうことができました。</p>				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます				
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にし ふるさと所沢の魅力を高めます				
<b>主要施策</b>	<b>(4) ふるさと研究の推進</b>			所管課	生涯学習推進センター 文化財保護課
<b>施策の目標</b>					
市民との協働により、ふるさと所沢の歴史、自然、文化等に関する資(史)料や情報を収集・保存し、調査・研究を進めます。また、その成果を、学校等とも連携しながら、展示や講座、体験学習会等を通して子どもから大人まで広く市民に伝え、郷土への愛着・理解を深めます。					
<b>施策の内容と今後の方向</b>					
市民や関係団体等と協力して、ふるさと研究活動を推進します。 ・市民の財産であるふるさと研究資料の収集・調査・整理を進め、市民や研究者等への利用に供するなど、その活用に努めます。 ・展示、講座、体験学習会等を開催し、資料保存の必要性を広く市民にPRします。					
主な事業の実施状況・評価					
<b>事業名</b>	<b>ふるさと研究活動事業</b>	所管課	生涯学習推進センター	決算額	8,534千円
ふるさと所沢への愛着・理解を深めるため、次の事業を行いました。 ・常設展示、企画展示(市制施行70周年記念特別展「市政70年のあゆみ」、冬季企画展「昔さがし展～着るものとくらし～」) 来場者 延べ1,458人 ・体験学習会(星空観望会「天体望遠鏡で月のクレーターを見よう!」、冬季企画展関連講座「機織り・糸ぐるま体験デー」) 参加者 延べ98人 ・市民学芸員による民具・古文書調査、展示や体験学習への協力 参加者 延べ171人					
評価	展示や体験学習会等の実施により、市民のふるさと所沢への愛着・理解を深めることができました。				
<b>事業名</b>	<b>三ヶ島葎子資料室運営事業</b>	所管課	生涯学習推進センター	決算額	62千円
郷土の歌人・三ヶ島葎子を周知するため、次の事業を行いました。 ・三ヶ島葎子資料室の運営 来場者 延べ267人 ・資料室ボランティアによる展示解説					
評価	資料室での展示や生涯学習情報紙「翔びたつひろば」での作品鑑賞連載により、三ヶ島葎子の作品や生涯を周知することができました。				
<b>事業名</b>	<b>所沢市史ダイジェスト版増補改訂事業[新規]</b>	所管課	生涯学習推進センター	決算額	2,024千円
市制施行70周年を記念して、『所沢市史』全14巻の内容をコンパクトにまとめた所沢市史ダイジェスト版『ところざわ歴史物語』(平成17年度初版発行)に、平成18年度以降の内容を新たに追加した増補改訂版を1,000部発行しました。					
評価	好評をいただき平成30年度に完売していた冊子の増補改訂版を市制施行70周年の年に発行することにより、多くの市民に所沢の歴史に親しむ機会を提供することができました。				

基本方針	2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます		
基本目標	4 歴史・伝統文化を大切にし ふるさと所沢の魅力を高めます		
主要施策	(5) 郷土に関する資料の収集・保存・活用	所管課	生涯学習推進センター 文化財保護課

施策の目標	<p>市民から提供される郷土に関する資料の受け入れを行うとともに、収集した資料を有効に活用できるよう、整理・調査を行います。</p> <p>郷土資(史)料の散逸・劣化を防ぎ、後世に伝えるための保存施設について、既存施設を見直し、収蔵・展示できる施設の整備に向けた検討を行います。</p>
施策の内容と今後の方向	<p>郷土資料を後世に残していくための保存施設整備について検討を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示や講座事業を通じて、郷土資料保存の必要性をPRしていきます。</li> <li>・令和元年度から、「所沢市郷土資料等収蔵施設整備に係る庁内検討調整会議」において、収蔵施設整備に向けた検討を進めています。</li> </ul>

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	資(史)料の収集・整理・保存・活用事業	所管課	生涯学習推進センター	決算額	3,414千円
	<p>ふるさと所沢に関する資料の収集・整理・保存を進め、市民や研究者等の利用に供しました。</p> <p>市民等からの申出を受け、郷土に関する資料の調査、受け入れを行いました。</p> <p>保存年限が切れた歴史的公文書の収集を行いました。</p> <p>古文書のマイクロフィルム撮影、既存マイクロフィルムのデジタルデータ化など、資料の代替化を進めました。</p> <p>閲覧学習室を運営し、閲覧・複写等の資料利用に供しました。</p>				
評価	<p>寄贈・寄託の申出があった資料を調査・収集して、展示等の事業において活用できました。</p> <p>閲覧学習室の運営により、所蔵資料を利用に供し、市民の学習活動のために役立てることができました。</p>				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます

<b>主要施策</b>	<b>(1) 家庭教育への支援</b>	所管課	社会教育課
-------------	---------------------	-----	-------

#### 施策の目標

すべての教育の出発点である家庭教育において、子どもが「生きる力」を身につける基盤づくりが必要です。子育てにおいて責任がある親が、子どもを主体的に育てていくことができるよう、市長部局や関係機関と連携して親の学びや育ちを支援します。

地域のつながりが希薄化する中、地域での学びや交流の場を通じ、家庭が地域や学校との関わりを持つ機会を充実させ、社会全体で家庭教育を支援していくネットワークづくりを進め、子どもたちの豊かな成長を促します。

#### 施策の内容と今後の方向

保護者が子育てについて主体的に学ぶ機会を市内全小中学校に継続して提供し、家庭教育学級をより多くの保護者に周知し参加を促進していくためには、学校・家庭・地域の連携が不可欠です。校長先生や教頭先生へ理解と協力をお願いするとともに、卒業生の保護者や家庭教育に関心のある地域の方々の家庭教育学級への参加を促進し、地域の保護者のコミュニティ形成に貢献し、社会全体で子どもたちを育てる環境情勢に努めます。家庭教育学級や子育て講座に参加できない家庭にも支援が届けられるよう、ITの活用等の新しい事業手法も試みながら、事務の見直しに努めます。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	家庭教育推進事業	所管課	社会教育課	決算額	690千円
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小中学校区に組織される運営委員会に家庭教育に関する講座の開設を委託し、子育て等に関する学習の機会を提供しました。感染症対策のため規模を縮小するとともに、HPによる情報提供や公開講座の開催を始めました。</li> <li>【家庭教育学級の参加者数等】小中学校 47 学級・学級生数 979 人・講座数 105 講座 (子育て講座・プログラミング学習体験講座・人権教育合同講座など)</li> <li>・家庭教育啓発リーフレット(小学校編・中学校編)を作成し、対象の保護者に配布しました。</li> <li>・小学校の就学時健診や入学説明会などの機会に、小学校入学を控えた保護者に対し、入学に向けての心構えなど、子育て講座を実施しました。</li> <li>【子育て講座の参加者数等】小学校 19 校・参加者数 1,527 人</li> </ul>				
評価	<p>コロナ禍の影響により規模は縮小しましたが、家庭教育学級の開設等により学習の機会の提供を継続できました。</p>				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます

<b>主要施策</b>	<b>(2) 放課後の居場所づくり</b>	所管課	学校教育課、社会教育課
-------------	-----------------------	-----	-------------

#### 施策の目標

放課後の小学校を児童の安全・安心な遊び・学びの場として提供する放課後支援事業「ほうかごところ」では、それぞれの地域の特色を生かした取組を実施し、地域の力で子どもたちの豊かな体験と健やかな成長を支えます。

放課後支援員や地域のボランティア等で、子どもたちが異年齢集団で元気に遊んだり学んだりする姿を見守り、地域の実情にあわせて、子どもたちの健全育成を支援します。

#### 施策の内容と今後の方向

平成 15 年 10 月に所沢小学校でスタートした「ほうかごところ」を段階的に拡大し、現在 10 校で実施しています。「ほうかごところ」は、運営協議会を設置し、地域の特性を取り入れながら運営されています。

##### 【現在の事業実施校】

所沢小学校、北小学校、松井小学校、清進小学校、明峰小学校、若松小学校、北秋津小学校、若狭小学校、林小学校、南小学校

平成 27 年度より、平成 26 年度の国の方針を踏まえ、放課後児童対策一体運営を進めることとなり、こども未来部青少年課所管で「中富ほうかご広場」がスタートしました。

放課後児童対策一体運営事業とは、放課後に保護者が働いていて留守になる家庭の児童をお預かりする「児童クラブ」と、放課後の児童の安全・安心な居場所確保のための「ほうかごところ」の 2 つを一体的に運営する事業です。この 2 つの事業を相互に連携して実施することにより、双方の事業の効率的な運営や学校との連携等充実を図るものです。

一体運営事業における「中富ほうかご広場」(青少年課所管)と、既存の 10 校の「ほうかごところ」(学校教育課所管)とは、所管は異なりますが運営や利用方法に大きな違いはなく、同様の事業を行っています。両者合同のリーダー会議等で情報交換を行い、夏にはスタッフの研修会も行っています。

地域の子どもは地域で育てるという「地域立」の考え方をふまえ、安全・安心な居場所づくり、異年齢間の交流を通した子どもたちの健全育成という趣旨や意義を一層具現化していきます。

「放課後支援事業」を行っている既存の 10 校の充実を図ります。

青少年課による、放課後支援事業「中富ほうかご広場」との連携を一層深めていきます。

毎年、危機管理及び児童理解についてスタッフ研修会を 2 回実施していますが、今後も研修を充実させ、更なる児童の健全な育成を図ります。

より多くの子どもが楽しくかかわり合う中で、自主性や社会性を高められるよう、それぞれの地域の特色を生かした活動の充実を一層図っていきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	放課後支援事業	所管課	学校教育課	決算額	43,428 千円
<p>事業推進のため、以下のような会議・研修会を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所沢市放課後支援事業「ほうかごところ」リーダー会議（中止）</li> <li>・「ほうかごところ」リーダー及びスタッフ研修（中止）</li> <li>・「ほうかごところ」連絡協議会（11月24日）</li> <li>・各「ほうかごところ」における運営委員会の開催（実施校ごとに）</li> <li>・令和2年度事業報告書を作成し、関係所属・各ほうかごところ・運営委員会等に配布</li> </ul> <p>近年では、個別の支援が必要な児童の「ほうかごところ」への登録が多くなってきている現状を踏まえ、スタッフ対象の研修会の内容を、特別支援教育に関するものとして実施しました。</p> <p>青少年課による放課後支援事業「ほうかご広場」との連携についても、11月の「ほうかごところ」連絡協議会に「ほうかご広場」のスタッフも会議に参加し、また、「ほうかご広場」のスタッフが既存の「ほうかごところ」実施校を視察する取組も始めています。</p> <p>【年間利用児童数】 延べ50,113人      【開設した日数】 10校平均で167日</p> <p>【2年度の登録率】 41.8%（令和2年度の目標値は60%）</p>					
評価	会議や研修会の開催により情報共有を図り、事業の円滑な実施に資することができました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます

<b>主要施策</b>	<b>(3) 青少年教育の推進</b>	所管課	社会教育課
-------------	---------------------	-----	-------

<b>施策の目標</b>	<p>子どもは異年齢集団での交流や、自然体験、社会体験など様々な体験活動から多くのことを学び、「生きる力」を身につけます。このような体験活動を行う社会教育関係団体を支援し、子どもが多方面から成長できる環境づくりを進めます。</p> <p>子どもは、大人の姿を見て育ち、大人の責任ある行動が地域の教育力につながっています。多くの大人が活動に参加し、地域ぐるみで子どもたちの活動に取り組むことができるよう、青少年教育について学ぶ機会の拡充を図ります。</p>
--------------	---

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>「所沢こどもルネサンス」は、市民のボランティアスタッフが主体となり、子どもたちに様々な体験活動を提供しています。ボランティアスタッフの高齢化や協力者の不足等の課題もあり、今後は学生を含めボランティア人材の発掘や育成が求められるとともに、市役所内での連携を深めて事業を検討していきます。</p> <p>コロナ禍の影響で、例年と同様に事業を実施できない状況ではありますが、団体や関係者と連携・協力しながら、事業を進めていきます。</p>
--------------------	---

#### 主な事業の実施状況・評価

<b>事業名</b>	<b>子ども会育成事業</b>	所管課	社会教育課	決算額	260千円
評価	<p>コロナ禍の影響により、各小学校区子ども会育成会の活動が縮小となり、21校区中5校区のみの交付金の交付となりました。また、所沢市子ども会育成会連絡協議会へも補助金を交付しました。</p> <p>所沢市子ども会育成会連絡協議会の活動も縮小となり、例年実施している5年生インリーダー研修会(共催)、6年生インリーダー研修会(後援)、ジュニアリーダー養成講座(後援)、等の事業が中止となりました。</p>				
評価	各小学校区子ども会育成会の様々な活動状況に応じて支援できました。				

<b>事業名</b>	<b>所沢こどもルネサンス開催支援事業</b>	所管課	社会教育課	決算額	1,284千円
評価	<p>市民ボランティアで組織される「所沢こどもルネサンス実行委員会」に補助金を交付しました。</p> <p>コロナ禍の影響により多くの事業が中止となりましたが、「こども文学のひろば」「まんが・イラストコンクール」「トコトコタウン」の開催を支援しました。</p> <p>例年多くの子どもたちでにぎわう「トコトコタウン」(子どもたちがつくるまち)は、実施方法及び内容を変更し、オンライン会議システムを利用して、「エコエネルギーを知ろう!」「記者になってインターネットニュースを作ろう!」という2つの講座を実施しました。</p> <p>【事業参加者数】年間延べ2,670人</p>				
評価	実行委員会で検討を重ね、コロナ禍でも子どもたちが参加できる事業を実施できました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

<b>主要施策</b>	<b>(1) 教師力・組織力の向上</b>	所管課	学校教育課、教育センター 教育総務課
-------------	-----------------------	-----	-----------------------

### 施策の目標

教職員の年齢や経験、職層に応じ、学校の課題解決に向けた実践力、指導力を身につける研修の実施や学校への支援を通して、教職員の資質・能力の向上に努め、所沢の教育を担う人材を広い視野から計画的に育成します。

学校指導訪問、学校管理訪問、生徒指導訪問、教育相談室訪問等を実施し、教育内容の一層の充実、いじめ・非行問題行動・不登校の未然防止を図ります。また、学校を法的側面から支援し、問題の早期解決を図ります。教職員の負担軽減、業務の適正化の観点から、校務や事務処理の効率化・簡素化や、職員間での連携、分担体制構築等を図り、教員が本来行うべき教育に関する業務に専念できる、持続可能な学校指導体制を整備します。

### 施策の内容と今後の方向

令和 2 年度も、県教委との連携を図り、主幹教諭を 10 人配置し、各学校が校長の学校経営方針のもとに組織全体で教育活動に取り組める体制づくりを支援しました。

平成 27 年度から開始した事業である、授業及び校務を担当できる「学力向上支援講師」を令和 2 年度も 12 人（小学校 5 人、中学校 7 人）配置し、学習支援員等の人的支援とあわせて、児童生徒の学力の向上に資するとともに、各学校がより一層組織的に教育活動に取り組めるよう支援を行いました。学力向上支援講師に関する調査の結果、教員の負担が軽減され、個に応じたきめ細かい指導が行えるようになり、学力の向上に貢献できたとの報告がありました。

「学び創造アクティブプラン」の基本理念を継承し、令和 2 年度より「学び創造アクティブ PLUS」がスタートしました。「必要感・達成感」「自己肯定感」「未来を切り拓く力」を 3 つの柱に据え、授業改善をさらに一歩進めた取り組みにより、各校の組織的な研究推進の取組を支援しています。

令和 2 年度はコロナ禍の影響によりアクティブ研究委託は令和 3 年度にスライドし、学校クリエイト研究校は 1 校のみ実施しました。

特別支援学級の新設や特別支援教育研修会（コーディネーター等対象）の実施等により、各学校が、特別支援教育の視点に立ち、組織全体で個に応じた指導が行える体制づくりを支援しました。

栄養教諭を 10 人配置し、担任教員と連携を図りながら食に関する指導を積極的に進め、食育の推進を支援しました。

「学校法律相談事業」により、学校が教育問題に詳しい弁護士に直接相談し、法的側面からの助言を得ることで、早期の解決を図ることができる体制にしています。

校務支援システムにより、諸表簿の電子化を進めたり、提出書類の書式をシステム内の書庫に保管し、誰でも活用できるようにしたりして、教職員が事務処理を効率的に進められるようにしました。

各学校が組織的に教育活動に取り組めるよう、引き続き組織力の向上につながる支援を行っていきます。

○平成 28 年度に「所沢市立小中学校県費負担教職員の業務負担軽減検討委員会」を設置し、学校における業務負担軽減策について協議・検討し、教職員の業務負担軽減につながる実効性のある取組を推進しています。併せて、埼玉県教育委員会が策定した「学校における働き方改革基本方針」を受け、本市では「所沢市立学校における働き方改革基本方針」を策定し、教職員の負担軽減や長時間勤務の解消に継続して取り組み、学校教育の質の維持向上を図ります。

調査の精選、文書の電子化、記入例の配布等により、引き続き教職員の負担軽減を推進していきます。

部活動については、「所沢市『設置する学校に係る部活動の方針』」に則り、適切な休養日等や活動時間を設定し、教員の働き方改革を推進していきます。また、令和 2 年度も部活動指導員を市内中学校 4 校に配置し、部活動の充実並びに教職員の負担軽減を図りました。



主な事業の実施状況・評価

事業名	小学校教科書改訂に伴う教科書等整備事業〔新規〕	所管課	教育総務課	決算額	93,735千円
教科書改訂に伴い、小学校教員用の教科書と指導書を整備いたしました。					
評価	予定どおり整備することができました。				
事業名	資質向上事業	所管課	教育センター	決算額	40千円
<p>教職員の経験年数や職種に応じた研修を行い、教職員の資質向上を図りました。</p> <p>県主催の初任者研修、ステップアップ研修、ジャンプアップ研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修、20年経験者研修等を支援しました。(対象者280人)</p> <p>本教育センターとして、感染症対策や臨時休業への配慮をした上で、2年次教員研修、ミドルリーダー研修員研修、教育相談研究員等、更なる資質向上を目指す事業を実施しました。</p>					
評価	机上(所属校で資料を参照して研修する方法)やオンライン等、研修方法を工夫し、教職員の学びを止めないための支援を行うことができました。				
事業名	学校支援訪問事業	所管課	学校教育課	決算額	0千円
<p>管理・指導両面で学校を支援できるよう、次の訪問を行いました。</p> <p>【所沢市教育委員会・西部教育事務所 学校管理訪問】</p> <p>学校運営上の諸課題を把握し、必要事項について指導・助言を行い、学校管理・運営の適正化を図ることを目的とし47校1園に対し、所沢市教育委員会学校管理訪問を行いました。また、西部教育事務所に要請しての学校管理訪問を47校に対し行いました。</p> <p>【所沢市教育委員会・西部教育事務所 学校指導訪問】</p> <p>教育行政施策の浸透や教育課程の管理・学習指導等、学校教育の専門的事項について指導・助言し、学校教育の充実を図ることを目的に、23校1園に対し、学校指導訪問を行いました。</p> <p>(2年間で市内全ての公立小中学校・幼稚園を訪問します)</p> <p>【生徒指導訪問】</p> <p>年2回、市内全ての公立小中学校に生徒指導、特別支援教育、教育相談に関する学校訪問を実施し、生徒指導、特別支援教育、教育相談上の重点と課題を把握するとともに、指導・助言を行い、いじめ・不登校の未然防止に努めました。</p>					
評価	各訪問を通して、学校に対して様々な面から支援することができました。				
事業名	学校法律相談事業	所管課	学校教育課	決算額	1,320千円
<p>学校と、児童生徒やその保護者、近隣住民等との間で生じる様々な問題の解決にあたり、学校が教育問題に詳しい弁護士に直接相談し、法的側面からの助言を得ることで早期の解決を図りました。</p> <p>令和2年7月に、全小中学校の校長を対象とした学校法務研修会を机上研修として開催し、顧問弁護士が作成した資料に基づき、問題の法的な解決のための具体的な対応事例を中心に研修しました。</p> <p>法律相談は、電話による相談を36件、面談による相談を1件行いました。</p>					
評価	学校が弁護士に直接相談することで、問題の解決の方向性を見出すことができました。また、法的側面からの助言を得ることにより、問題の早期解決を図ることができました。				
事業名	部活動指導員配置事業	所管課	学校教育課	決算額	1,081千円
<p>運動部活動2人、文化部活動2人の総計4人の部活動指導員を市内中学校4校に配置し、顧問教員と連携して部活動の指導を行いました。</p>					
評価	部活動の充実並びに顧問教員の負担軽減を図ることができました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

<b>主要施策</b>	<b>(2) 特色ある学校づくりの推進</b>	所管課	学校教育課
-------------	-------------------------	-----	-------

#### 施策の目標

各学校が、創意工夫を凝らした教育活動が展開できるように、特色ある学校づくりを支援します。教育課程の編成については、新学習指導要領に示された、各学校における地域の環境や人材を生かす「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、様々な授業実施の可能性について研究していきます。

#### 施策の内容と今後の方向

平成 13 年度より「特色ある学校・園づくり支援事業」を実施しており、各学校・園では、特色ある学校・園づくり宣言文を掲げ、事業委託料を有効活用して、地域の人材や環境を活かした創意工夫のある教育活動を実践するとともに、毎年報告書を作成・配布して各校の実践内容の周知を図っています。

各学校・園では、取組を学校評価で検証するとともに、成果を学校だよりや HP 等で発信しています。

各学校・園では、特色ある学校・園づくりを経営の中心的事項として推進し、地域の特色及び各学校・園の特色を生かし、創造的に生きる子どもたちの育成を図っていることから、学校評議員はもとより、保護者、地域からの評価も高いため、今後も本事業の推進と高い有効性の一層の周知を広く図っていく必要があります。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	特色ある学校づくり支援事業	所管課	学校教育課	決算額	11,898 千円
	<p>所沢第二幼稚園及び各小中学校が、創意工夫を凝らし、地域の特性を活かした、主に体験的な教育活動を実施しました。地域の特性を活かした活動として、「生活科や総合的な学習の時間等における地域の伝統芸能や地場産業の体験的な学習」「環境美化のための保護者、地域と連携した花壇への植栽」「地域の行事や清掃活動への参加」等が行われました。</p> <p>教育委員会では、各校・園に対し、前年度の実績と今年度の計画を元に事業委託料を配当したほか、年度途中と年度末に、進捗状況の把握及び成果報告と次年度の計画についてヒアリングを行い、事業委託料の有効活用や本事業の周知方法についての助言など、各校・園の取組を支援しました。</p>				
評価	活動を通して子どもたちに豊かな心や、主体的に学び自ら問題を解決する資質・能力を養うことができました。				

事業名	学校評議員活用事業	所管課	学校教育課	決算額	0 千円
	<p>各小中学校に、学校の必要に応じた人数の学校評議員を委嘱しました。評議員は、学校評議員会や学校評価に係る学校関係者評価等、校長の求めに応じて意見を述べ、学校教育活動の充実に寄与しました。</p>				
評価	コロナ禍の中、子供・家庭に大きな負担とならないような教育活動を展開してほしいというご意見をいただき、学校教育活動の充実につながりました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

<b>主要施策</b>	<b>(3) 危機管理体制・学校安全の充実</b>	所管課	学校教育課
-------------	---------------------------	-----	-------

#### 施策の目標

学校内外での事件・事故を未然に防止するとともに、地域の防犯体制の強化、交通安全の推進を図るため、安全・安心な学校と地域づくり推進事業を推進します。

「子どもの命に勝るものはなし」を全教職員の共通認識とし、危機管理マニュアルの点検や見直し、避難訓練等の実施、メール配信システムを活用した不審者情報等の適切・迅速な共有化等により、学校の危機管理体制を確立します。

#### 施策の内容と今後の方向

○生徒の命に関わる重大な事案の発生を受け、引き続き市費スクールカウンセラー4人を市内全中学校に配置し、健やか輝き支援室心理士の指導の下、各学校の教育相談体制を充実させるとともに、児童生徒が安心してSOSを発することのできる学校指導体制を実現させます。

児童生徒の安全・安心のため、小中学校の登下校指導、校内パトロール、管理職への危機管理面でのアドバイスなど、積極的に働きかけました。

生徒指導に関する学校訪問等において児童生徒や学校の実態を把握し、いじめ・非行問題行動の未然防止や対応について支援しました。生徒指導担当の指導主事や心理士等が学校を訪問することにより、生徒指導上課題がある児童生徒について、直接、専門的な視点から実態を把握しました。それにより、問題行動の未然防止や対応について、有効な方策を講じ、個に応じた支援を行うことができました。

防犯講習会の開催、街頭キャンペーン等、地域・関係団体の諸行事への協力を通して、地域の防犯や事故防止の意識の高揚を図りました。(コロナ禍の影響により、中止となったものあり)。

小中学生に対する下校指導及び校外パトロールを実施して、犯罪被害や交通事故の未然防止を図りました。

各校が作成する学校防災対策本部運営マニュアルについて、引き続き、見直しを図るとともに、教職員だけでなく保護者や地域にも周知を図るよう学校に働きかけます。

交通ルールを遵守し、特に自転車による交通事故防止については、加害者の視点も加えた指導に努めます。

コロナ禍の状況を注視しつつ、地域行事への参加を促します。

学校・家庭・地域が連携して、幼・保・小中学校で子どもを育てる取組を実施します。

「いじめ撲滅」「交通事故防止」「地域行事への主体的参加」「地域ぐるみのあいさつ運動」を活動の重点に置き、地域をあげて取り組んでいきます。

全支部の小中学校において、「あいさつ運動」を継続していきます。

地域の行事や活動に主体的に児童生徒を参加させていきます。

関係機関と連携し、メール配信システムを活用した不審者情報等の適切・迅速な共有化に継続し取り組んでいきます。

主な事業の実施状況・評価

事業名	安全・安心な学校と地域づくり推進事業	所管課	学校教育課	決算額	12,671千円
	<p>令和2年度、「安全・安心な学校と地域づくり推進本部」(行政機関・警察・地域関係団体・中学校・高等学校等により組織する連絡協議会)の本部会議を2回行う予定でしたが、コロナ禍の影響により、1回目は書面開催、2回目は中止としました。令和3年度は感染症の状況をふまえながら、1回開催する予定です。近年、本市で発生している児童生徒の事件・事故の概要、中学校区ごとに組織する推進支部の活動、関係行政機関の活動について情報を共有し、下記の取組に生かしています。</p> <p>本事業の大きな4本の柱として、「いじめ撲滅」「交通事故防止」「地域行事への主体的参加」「地域ぐるみのあいさつ運動」を掲げています。例年、推進支部ごとに、登下校の見守り、校外パトロール、防犯講習会、あいさつ運動等の活動を行っています。</p> <p>【児童生徒の地域行事への参加人数】 令和2年度 延べ1,092人 (令和元年度 34,631人)</p> <p>【推進員の活動状況】学校訪問・地域での支援 令和2年度 延べ679回 (令和元年度 延べ706回)</p> <p>【支部会議の開催状況】 令和2年度 1回 (令和元年度 28回)</p>				
評価	<p>コロナ禍の影響により、活動の一部に制約がありましたが、経験豊富な推進員が各学校を巡回するなど、きめ細かな支援ができました。</p>				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

<b>主要施策</b>	<b>(4) 学校・家庭・地域の連携推進</b>	所管課	学校教育課
-------------	--------------------------	-----	-------

#### 施策の目標

学校評議員制度<sup>\*1</sup>を活用し、保護者や地域住民等の幅広い意見を学校運営に生かし、学校の活性化を図ります。また、学校評価<sup>\*2</sup>を適切に行い、その結果と改善の方針等について、地域・保護者等に、学校だよりや学校のHP等で速やかに公表し、地域と協力して学校運営を進めます。

幼児教育と学校教育の滑らかな接続に向けて、幼児教育振興協議会の協力を得て作成した「小1スタートカリキュラム」を活用し、園・学校・家庭が連携し、子どもの健やかな成長を支えます。

小中学校が一貫した新たな教育を推進するために、中学校区内で「目指す児童生徒像」や「重点目標」等を設定し、共有します。また、授業改善の視点を踏まえた9年間を見通したカリキュラム<sup>\*3</sup>を編成し、学習指導や生活指導の改善をします。

<sup>\*1</sup> 学校評議員制度…開かれた学校づくりの一環として、地域住民が学校運営に参画する制度。教育委員会が委嘱する学校評議員は、校長の求めに応じて、学校運営に関し意見を述べるができる。

<sup>\*2</sup> 学校評価…学校が教育活動の重点目標やその実現のための具体的方策を定め、その実施結果や達成状況について、検証・評価を行い、さらにこれを公表することで説明責任を果たし、学校運営の改善を図る仕組み。

<sup>\*3</sup> 9年間を見通したカリキュラム編成…学習規律、授業での約束、発達段階を踏まえた教科指導等についての情報を共有し、カリキュラムを編成する。

#### 施策の内容と今後の方向

市内の全小中学校において、学校ごとに学校評議員会を開催し、学校経営等についてご意見をいただきました。いただいた感想や改善点等を学校運営に生かしました。今後も、学校評議員制度を活用し、家庭や地域と連携・協力して、子どもの健やかな成長を促すために、開かれた学校づくりを引き続き進めていく必要があります。各学校で保護者等にアンケートなどを行い、学校の重点目標等の達成率を学校だよりに掲載し、地域と連携・協力して学校運営を行いました。また、今後も引き続き、学校評価を行い、学校運営の改善を図ります。

幼・保・小の連携強化を図るため、所沢市幼児教育振興協議会を中心に連携を深めました。市内の幼稚園・保育園・小学校が東西南北・中央の5つのブロックに分かれて、共通の課題を持ち、授業公開や情報交換会を行い、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図りました。

幼児教育と学校教育の滑らかな接続に向けて、埼玉県から出されている「子育ての目安『3つのめばえ』』について、保育園・幼稚園・小学校で活用し、子育ての大切さを伝えました。今後は、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育課程「小1スタートカリキュラム」の定着を、継続的に行っていく必要があります。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	「学び創造アクティブPLUS」学力向上推進事業	所管課	学校教育課	決算額	579千円
<p>コロナ禍の影響により、例年どおりに実施することはできませんでした。新型コロナウイルス感染症への対応について中学校区で共通理解を図りました。</p>					
評価	コロナ禍で制限のある中において、中学校区で共通理解を図ることができました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります		
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます		
<b>主要施策</b>	<b>(1) ICT 環境の整備</b>	所管課	教育センター、学校教育課
<b>施策の目標</b>	<p>学校における ICT 関連機器の整備を進め、学習環境の充実を進めるとともに、教職員の校務負担を軽減し、子どもと関わる時間の確保を図ります。</p> <p>タブレットや電子黒板等の ICT 機器、校務支援や図書管理のシステム、LAN 環境等のインフラなど、ICT 利活用のための基盤の整備を計画的に進めます。</p>		
<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>GIGA スクール構想の実現に向けて整備した学習者用コンピュータの効果的な活用に向けて、今後も計画的に ICT 関連機器の整備に努めます。</p> <p>高額な費用を必要とすることから、計画的な整備と機器を使用する教職員の活用力・指導力の向上が求められます。</p>		

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	電子黒板導入事業	所管課	教育センター	決算額*	215,600 千円
評価	<p>令和元年度までは電子黒板の導入を進めていましたが、令和2年度に文部科学省の「GIGA スクール構想」に基づき、児童生徒一人一台の学習者用コンピュータを整備したことにより、すべての普通教室及び一部の特別教室に大型提示装置が早急に必要となったことから、電子黒板から液晶ディスプレイに機器を変更し導入を完了しました。</p> <p>* 決算額は液晶ディスプレイ導入費用を記載しています。</p>				
事業名	デジタル教科書導入事業(コンテンツ配信サービス試行的導入)[新規]	所管課	教育センター	決算額	393 千円
評価	<p>所沢中学校と柳瀬中学校において、数学・理科・社会の3教科のデジタル教科書を試行的に導入いたしました。数学では図や表、グラフなどを提示して説明・考察させたりするために使用し、有効に活用できました。理科では、観察や実験の手順をより鮮明に示すことができ、スムーズに授業を進めることができました。社会では、資料の拡大提示ができ、授業の準備にかかる時間が削減できました。</p> <p>今後は多くの授業でデジタル教科書が活用できるようになり、教科書に連動したコンテンツを利用し、さらに幅広い授業展開が期待できると考えられます。</p>				
事業名	教育ネットワーク整備事業(校内 LAN 整備)[新規]	所管課	教育センター	決算額	511,500 千円
評価	<p>文部科学省の「GIGA スクール構想」に基づき、市内小中学校の普通教室及び特別教室の合計 1,681 教室に、LAN 環境を整備しました。</p> <p>計画どおり令和2年12月末日までに整備が完了しました。</p>				

事業名	教育ネットワーク整備事業(パソコン教室用ネットワーク機器等更新)[新規]	所管課	教育センター	決算額	5,553 千円
小学校 16 校及び中学校 15 校のパソコン教室の教育用ネットワーク機器を整備しました。なお、残りの小学校 16 校につきましては、令和 3 年度に整備する予定です。					
評価	計画どおり整備が完了しました。				
事業名	教育用コンピュータ更新事業(小学校)[新規]	所管課	教育センター	決算額	36,634 千円
平成 26 年度に導入した小学校児童用タブレットパソコン 640 台及び周辺機器等をリースにより、新たな機器に入れ替えました。タブレットパソコンは Chromebook (720 台) へ変更しました。					
評価	支障なく入替が完了するとともに、Chromebook は一人一台端末の先行導入として多岐にわたり実証実験機として活用することができました。				
事業名	校務用コンピュータ更新事業(中学校)[新規]	所管課	教育センター	決算額	9,667 千円
平成 26 年度に導入した中学校教職員用パソコン 138 台をリースにより新たなパソコンに入れ替えました。					
評価	支障なく入替が完了しました。				
事業名	小・中学校校務支援システム更新事業(教育ネットワーク仮想化基盤移行)[新規]	所管課	学校教育課	決算額	1,601 千円
平成 27 年度に導入した小・中学校校務支援システムの更新に伴い、サーバ機器を教育ネットワークの仮想化基盤に集約しました。					
評価	支障なく移行作業が完了しました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

<b>主要施策</b>	<b>(2) 学校環境の整備・適正化</b>	所管課	教育施設課、学校教育課 教育センター、教育総務課
-------------	------------------------	-----	-----------------------------

#### 施策の目標

老朽化した学校トイレについては、洋式化やバリアフリー化、臭気対策や給排水管の更新等を行い、学校環境の向上を図ります。

小中学校からの要望によりバリアフリー改修を行う際には、児童生徒の障害に応じた必要な配慮をします。

学校備品について計画的な整備を行います。

学校施設の非構造部材\*の耐震化対策を推進します。

「所沢市公共建築物における木材の利用の促進に関する方針」により、可能な範囲で校舎内装木質化を進めます。

学校施設の維持管理・更新等を着実に推進するため、学校施設の長寿命化計画（個別施設計画）を策定します。

施設の複合化等、学校施設の整備について公共施設マネジメントの考え方にに基づき、関係部局と連携して研究します。

\* 非構造部材…柱や梁などの構造体ではなく、天井材や外壁（外装材）など、構造体とは別に区分された部材。

#### 施策の内容と今後の方向

○学校トイレ改修工事は、令和3年度までに校舎1系統目の改修を完了する予定です。引き続き、2系統目及び屋内運動場のトイレ改修工事を進めてまいります。

○バリアフリー改修については、小中学校からの要望に加え、国が示した「小中学校等施設のバリアフリー化に関する整備目標（令和2年12月25日）」を踏まえ、児童生徒の障害に応じた必要な配慮を行います。

○非構造部材の耐震化対策については、令和2年度中に既存の整備方針を改正し、その方針に基づき今後も引き続き実施していきます。

○令和2年度に校舎内部改修（木質化）の整備方針を定め、その方針に基づき、市内中学校から整備を進めます。

○令和3年3月に策定された所沢市公共施設長寿命化計画の個別計画に位置付けられる学校施設の長寿命化計画の具体的な方針として、学校施設長寿命化実施計画を策定し、今後はその計画に基づき、学校施設の長寿命化改修等を進めてまいります。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	所沢市立山口中学校既存擁壁改修事業	所管課	教育施設課	決算額	331,152千円
	平成29年度の台風による大雨の影響により崩壊した敷地西側擁壁の復旧工事を平成30年度に完成させ、引き続き、崩壊を免れた周辺の既存擁壁の安全性を高めるための改修及び補修工事を進めました。（令和2年度から令和3年度の継続事業で実施）				
評価	令和2年度に工事着手したところ、仮設工事の際に地中障害物が確認されたことから仮設工事の工法を契約変更し、工期に支障なく工事を進めることができました。				



事業名	学校トイレ改修事業	所管課	教育施設課	決算額	513,353 千円
<p>学校トイレの老朽化に伴い、洋式化やバリアフリー化、臭気対策や給排水管の更新等の改修工事を小学校4校、中学校2校で実施しました。また、次年度の工事に向けて設計業務委託を小学校5校、中学校1校で、それぞれ実施しました。</p> <p>これにより、全体計画(1系統目)の46校中、令和2年度までに46校の設計、40校の工事を実施しました。</p>					
評価	学校トイレの洋式化等について、計画のとおり設計及び工事を実施し、児童生徒が使いやすいトイレを整備しました。				
事業名	小学校施設整備事業[新規]	所管課	教育施設課	決算額	127,568 千円
<p>所沢市公共建築物修繕計画に基づき、北秋津小学校屋内運動場屋根改修工事や並木小学校屋上外防水改修工事、柳瀬小学校屋上防水改修工事、宮前小学校屋内運動場屋根改修工事を実施しました。</p>					
評価	計画どおりに工事を実施し、改修工事により学校環境の向上を図る事ができました。				
事業名	中学校施設整備事業[新規]	所管課	教育施設課	決算額	80,660 千円
<p>所沢市公共建築物修繕計画に基づき、北野中学校受水槽改修工事や柳瀬中学校屋上防水改修工事を実施しました。</p>					
評価	計画どおりに工事を実施し、改修工事により学校環境の向上を図る事ができました。				
事業名	学校施設修繕・改修事業	所管課	教育施設課	決算額	445,800 千円
<p>経年による機能低下や損傷が進んでいる学校施設の修繕・改修を行いました。</p>					
評価	児童生徒の安全と学習環境の改善を図る事ができました。				
事業名	通学区域システム導入事業[新規]	所管課	学校教育課	決算額	3,520 千円
<p>通学区域システムを使用し、現在の通学区域一覧表と現状が異なる区域を把握し、最新の学区の状況把握を行いました。</p>					
評価	最新の通学区域一覧表及び通学区域図を作成することができました。				
事業名	教育センター空調設備改修事業[新規]	所管課	教育センター	決算額	77,770 千円
<p>教育センター新館の空調設備が、法定耐用年数である13年及び計画耐用年数である15年を超過し、冷暖房運転に支障が出ているため、改修工事を行いました。</p>					
評価	計画どおり工事が完了しました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります		
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます		
主要施策	(3) スポーツ活動の支援と環境整備	所管課	スポーツ振興課
施策の目標	<p>スポーツ施設の計画的な修繕や改修工事等を行い、安全に利用できるよう施設整備に努めます。</p> <p>スポーツ施設を予約する公共施設予約システムを適切に管理・運営し、利便性の維持・向上に努めます。</p> <p>学校教育に支障がない範囲で学校施設（体育館や校庭等）を開放することにより、地域に根ざしたスポーツ活動を促進し、広く市民にスポーツ活動の場を提供します。</p> <p>スポーツ推進委員をはじめとするスポーツ指導者の確保・育成に努めるとともに、研修会等により指導者の指導技術の更なる向上を図ります。</p> <p>各種スポーツ団体が主体的・積極的に活動を展開できるよう支援します。</p>		
施策の内容と今後の方向	老朽化する施設の現状と将来を見据え、安全に利用できるよう計画的な修繕や工事等の施設整備に努めます。		
主な事業の実施状況・評価			
事業名	総合運動場立体駐車場防水塗装事業	所管課	スポーツ振興課
決算額	38,709 千円		
総合運動場立体駐車場 2 階部分の防水シートにひび割れや剥がれが生じ、また、塗装の浮きが生じているため、1 階部分に雨漏りが起こっていました。そのため、令和元年度に北側半分を工事し、令和 2 年度に残りの南側半分の工事を行いました。			
評価	施設の安全上適正な管理ができるようになりました。		
事業名	所沢市民体育館サブアリーナ等床改修事業 [新規]	所管課	スポーツ振興課
決算額	17,050 千円		
市民体育館サブアリーナと柳瀬、富岡、三ヶ島の 3 地区体育館の床板の劣化による剥がれなどの発生による負傷事故の防止のため、床板を研磨し、塗装し直す改修工事を行いました。また、バスケットコートラインを平成 22 年のルール変更に対応したものに修正をしました。			
評価	施設の安全上適正な管理ができるようになりました。		
事業名	北中運動場トイレ改修事業 [新規]	所管課	スポーツ振興課
決算額	37,950 千円		
北中運動場は平成 7 年にオープンし、トイレ設備が老朽化しており、臭いや和式トイレに対する不満も多く、改善要望が多くなっていたため、トイレ施設を一新し、バリアフリーに対応できるよう便座も様式に改修しました。なお、事業にあたっては、スポーツ振興くじ助成金（助成割合の 3 分の 2×80%：助成金 6,454,000 円）を利用しました。			
評価	バリアフリーにも対応した施設になり、利便性・快適性が向上し、利用者からも好評です。		
事業名	所沢市民武道館屋根及び弓道場改修事業 [新規]	所管課	スポーツ振興課
決算額	0 千円		
新型コロナウイルス感染防止のため長期の施設閉鎖となり、更に改修工事を実施した場合、長期に渡って施設利用ができなくなります。利用者の利便性を優先するため、工事を延期としました。			
評価	早期に修繕できるよう努めます。		

事業名	所沢市民武道館受変電設備改修事業 [新規]	所管課	スポーツ振興課	決算額	29,370 千円
「所沢市公共建築物修繕計画」に基づき、施設の延命化を図りました。					
評価	施設の安全上適正な管理ができるようになりました。				
事業名	所沢市民体育館空冷ヒートポンプチラー改修事業 [新規]	所管課	スポーツ振興課	決算額	28,050 千円
市民体育館は、平成 16 年に竣工しており、経年劣化により空調設備の空冷ヒートポンプチラーに不具合が生じていました。そのため、補助装置の冷温水発生機を稼働して空調を行っていましたが、負担過大からくる故障リスクを軽減し、エネルギー消費量を抑えるため、改修工事を行いました。					
評価	施設の安全上適正な管理ができるようになりました。				
事業名	所沢市民体育館メインアリーナ Wi-Fi 導入事業 [新規]	所管課	スポーツ振興課	決算額	24 千円
所沢市民体育館では、全国規模の大会が数多く開催されることから、普及が進んでいるネット環境の充実を図る必要が生じたため、Wi Fi を導入する工事を実施しました。					
評価	工事完了後、Wi Fi 接続が容易になり、利用者の利便性が向上しました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

<b>主要施策</b>	<b>(4) 社会教育施設の環境整備</b>	所管課	社会教育課、所沢図書館 生涯学習推進センター
-------------	------------------------	-----	---------------------------

<b>施策の目標</b>	<p>市民の学習ニーズに応え、地域で活発な社会教育活動が行えるよう、公民館や図書館等の社会教育施設を安全かつ適正に管理・運営するため、計画的な修繕や改修工事を行うなど整備に努めます。</p> <p>学習施設等を予約する公共施設予約システムを適切に管理・運営し、利便性の維持・向上に努めます。</p>
--------------	---

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>老朽化する社会教育施設の計画的な修繕により、安全かつ適正な管理を行い、学習環境の維持を図ります。</p> <p>生涯学習推進センターの体育施設の暗幕の交換、受水槽の腐食部分の塗装を行いました。昭和 56 年に建設した既存小学校の校舎を転用して開設しており、施設の外壁等の老朽化により雨漏りが随所に見られるため、計画的な管理・修繕が必要です。</p> <p>○公共施設予約システムについては、現システム契約の終了(令和 6 年度)を視野に、関係各課と計画的な検討・協議を進めます。</p>
--------------------	--

#### 主な事業の実施状況・評価

<b>事業名</b>	<b>公民館施設整備事業[新規]</b>	所管課	社会教育課	決算額	15,015 千円
<p>「所沢市公共建築物修繕計画」に基づき、吾妻公民館非常用発電設備改修工事を実施しました。</p> <p>また、松井公民館自動昇降機改修工事の契約を締結し、令和 3 年度に工事が完了する予定です。</p>					
<b>評価</b>	施設改修の実施により、施設の利便性が高まりました。				

<b>事業名</b>	<b>公民館施設整備事業(並木公民館自動扉設置等改修工事)[新規]</b>	所管課	社会教育課	決算額	4,246 千円
<p>児童館との複合施設であるため、建物を行き来する渡り廊下の手動扉を自動扉に改修するとともに、扉付近にスロープを設置する工事を実施しました。</p>					
<b>評価</b>	車椅子等の利用者の利便性及び安全性が高まりました。				

<b>事業名</b>	<b>公民館施設整備事業(松井公民館ホール照明LED化)[新規]</b>	所管課	社会教育課	決算額	7,348 千円
<p>昭和 62 年に設置され耐用年数を経過し老朽化が著しいため、ホール内の白熱灯・非常灯及び蛍光灯を LED に交換しました。</p>					
<b>評価</b>	CO 排出量の削減及び光熱費など維持管理費の縮減や、利用者の利便性の向上に繋がりました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

<b>主要施策</b>	<b>(5) 就学にかかる経済的支援</b>	所管課	教育総務課、保健給食課
-------------	------------------------	-----	-------------

<b>施策の目標</b>	<p>経済的な理由により就学が困難と認められる世帯に対し、経済的負担を軽減するため、給食費や学用品費等の一部を援助する「就学援助事業」を推進します。</p> <p>特別支援学級等に就学する児童生徒の世帯に対して、経済的負担を軽減するため、給食費や学用品費等の一部を援助する「特別支援教育就学奨励事業」を推進します。</p>
--------------	---

<b>施策の内容と今後の方向</b>	<p>依然として経済的な理由で子どもを就学させることが困難な保護者が多く、保護者が就学援助事業の情報を得られるよう、徹底した周知を行い、保護者負担軽減を図ります。就学援助事業は、義務教育の円滑な実施のために必要不可欠なものであり、今後も事業を継続してまいります。</p> <p>特別支援学級・通級指導教室に在籍・通級するすべての児童生徒の保護者に特別支援教育就学奨励事業の案内を行い、奨励費の受給を希望する世帯の所得に応じ、給食費、学用品費、通学費等の一部を支給することで、保護者負担軽減を図ります。特別支援学級・通級指導教室に在籍・通級する児童生徒は、遠方の学校に通学するため、交通費等、通常学級に通う場合より、保護者の経済的負担が大きくなる傾向にあるため、今後も本事業を継続していく必要があります。</p> <p>OGIGA スクール構想に基づく ICT 環境の整備に伴い、援助が必要な保護者に対する経済的支援を進めてまいります。</p>
--------------------	---

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	就学援助事業	所管課	教育総務課、保健給食課	決算額	269,683 千円
	<p>経済的に困窮している世帯に対し、就学にかかる経費の一部を援助しました。</p> <p>【援助対象】・準要保護認定者：小学生 2,123 人、中学生 1,232 人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要保護（生活保護）世帯のうち修学旅行費支給者：小学生 12 人、中学生 0 人</li> <li>・要保護世帯のうち医療費支給者：小学生 2 人</li> </ul> <p>【援助内容】給食費、学用品、通学用品、校外活動費、新入学児童生徒学用品費、林間学校費 修学旅行費、体育実技用具費（中学校）、医療費（指定された疾患のみ）</p> <p>【新たな取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新入学学用品費」の支給額を増額いたしました。</li> <li>・緊急事態宣言下における臨時休校中に、改めて就学援助の通知を学校へ配付し、更なる制度周知を図りました。また、一度否認定となった世帯であっても、現時点の世帯状況を加味して審査できる制度（再審査制度）について、窓口で積極的に案内を行いました。</li> <li>・再審査制度については、制度自体に難解な点があることや、実際に困っている世帯に対して支援が行き届かない点があったことから、次年度以降に向けて、分かりやすく、支援を受けやすくする制度改正を行いました。</li> <li>・印鑑がないことで、申請受付日が遅くなる事例も散見されたことから、令和 2 年度の新入学学用品費の受付から、申請書における印鑑の欄を廃止しました。</li> </ul>				
評価	新たな取り組みにより支援の拡充、事業の周知の強化、運用を改善し、保護者負担の軽減に寄与できました。				

基本方針	3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります		
基本目標	3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます		
<b>主要施策</b>	<b>(6) 多様なニーズに対応した教育機会の提供</b>	所管課	教育センター、学校教育課

#### 施策の目標

○経済的な理由や家庭の状況から、日本語の理解が困難な帰国児童生徒や外国人児童生徒に対し、個々の状況に応じた適切な支援を行います。

#### 施策の内容と今後の方向

外国人児童生徒の編入増加と国籍の多様化が予想されることから、日本語教室講師派遣へのニーズは高まっています。また、親子ともに日本での生活が初めてという家庭もあります。今後も、日本語教室による支援の更なる充実を図るため、予算請求等を計画的に進めていきます。

#### 主な事業の実施状況・評価

事業名	教育課題に対応した学力向上推進事業	所管課	教育センター	決算額	1,860 千円
	<p>日本語の理解が困難な外国人児童生徒や海外帰国児童生徒に対して、学校生活に適應できるよう基本的な日本語や生活習慣等を身に付けるための支援を行いました。</p> <p>日本語以外を母語とする 6 人が日本語講師として登録し、日本語を母語とする 6 人が日本語ボランティアとして登録しています。日本語教室は、原則 1 回 2 時間、10 回を 1 クールとし、要請に応じて 5 回の延長を受け付けました。</p> <p>市内小中学校で延べ実施時間数 1,170 時間、講師を派遣しました。</p>				
評価	<p>日本語教室に参加した児童生徒は、生活に用いる言葉を中心に日本語の理解が深まったり、自信をもって学校生活を送ったりすることができるようになりました。また、母語での学習支援により学習内容の理解がスムーズになりました。</p>				

### (3) 指標の達成状況

基本方針 1	子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます
--------	------------------------

#### 基本目標 1 未来への一歩となる確かな学力と自立する力を育てます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び*1	2.0レベル	2.0レベル	—	毎年度 2.0レベル	—
学力向上推進事業における研究委託校数*2 (各学校における研究実践とその成果の発表により、市内全小中学校の教育力向上を図るために研究を委託した年間の学校数)	20校	20校	1校	20校	5.0
小学校における外国語教育についての研修実施率*3 (教員を対象にした外国語に関する校内研修等を実施した割合)	25%	100%	0%	100%	0
ICTを活用して指導できる教員の割合 (電子黒板等のICTを活用して情報教育を指導できる小中学校教員の割合)	65.95%	65.93%	69.75%	100%	69.8

\*1...埼玉県学力・学習状況調査における前年度からの同学年における学力(国語、算数・数学、英語)の伸びの平均。学力の伸びは、小4～中3までレベル1～12まであり、各レベル内でさらにA～Cの3層に分かれ算出される。

「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

「埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び」について、実績値の根拠となる埼玉県学力・学習状況調査が、令和2年度はコロナ禍により例年どおり実施できず、前年度と比較できる実績を得られなかったことにより「-」表示とした。

\*2...「学力向上推進事業における研究委託校数」について、令和2年度はコロナ禍により例年どおり実施できず、1校のみで実施。

\*3...コロナ禍により、研修会を実施できず。

## 基本目標 2 一人ひとりが持っている思いやりのある豊かな心を育てます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
学校の先生や友達は、自分のよいところを認めてくれていると考える児童生徒の割合 (埼玉県学力・学習状況調査における該当の質問に「はい」と答えた児童生徒の割合)	89.2%	90.3%	—	92%	—
学校図書館の年間一人あたりの貸出冊数	小学校 22.6冊 中学校 12.2冊	小学校 24.1冊 中学校 13.6冊	小学校 21.7冊 中学校 8.7冊	小学校 24冊 中学校 13冊	小学校 90.4 中学校 66.9
小中学校のいじめの解消率 (小中学校における12月末日現在のいじめの解消率*4)	51.2%	43.5%	48.7%	64%	76.1

\*4...いじめが解消している状態とは、相当期間(3か月を目安)いじめが止んでいること、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないことが要件。1月以降も継続指導、経過観察を行っており、年度末には概ね解消している。目標値64%は、県のH29の解消率と同一である。

「学校の先生や友達は、自分のよいところを認めてくれていると考える児童生徒の割合」について、実績値の根拠となる埼玉県学力・学習状況調査が、令和2年度はコロナ禍により例年どおり実施できず、前年度と比較できる実績を得られなかったことにより「-」表示とした。

## 基本目標 3 心身ともにたくましく生き抜く力を伸ばします

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
むし歯の処置率 (小中学校の健康診断で治療勧告されたむし歯の処置率)	小学校 78.1% 中学校 71.9%	小学校 75.8% 中学校 69.0%	小学校 73.2% 中学校 68.5%	小学校 90% 中学校 85%	小学校 81.3 中学校 80.6
学校給食センターの再整備*5	老朽化した学校給食センター 2施設	—	—	再整備した学校給食センター 1施設	—
給食の残食率 (小中学校全体の残食率*6)	6.3%	5.65%	5.46%	毎年度7%以下	128.2
体力テストにおける上位ランクの児童の割合(小学校)*7	78.9%	79.5%	—	80%	—
体力テストにおける上位ランクの生徒の割合(中学校)*7	87.9%	87.3%	—	89%	—

\*5...まずは、第3学校給食センターの代わりとなる新学校給食センターを整備する。

\*6...過去5年間の平均残食率は6.1%。現状値よりも高い残食率にある学校を減少させていくよう努めていくものとする。

\*7...新体力テストの総合評価(文部科学省が示すテストの種目ごとの得点から換算)が5段階中の上位3ランクの評価となった児童生徒の割合

小中学校の体力テストは、令和2年度はコロナ禍により例年どおり実施できず、前年度と比較できる実績を得られなかったことにより「-」表示とした。



基本方針 2	学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます
--------	----------------------------

基本目標 1 生涯学習・社会教育が育む学びの絆をひろげます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
<b>教育委員会で実施の生涯学習 関連事業数</b> (教育委員会の各部署が実施した 生涯学習関連事業の件数)	43件	45件	36件	50件	72.0
<b>生涯学習ボランティア人材バ ンクの登録者数</b> (資格・経験を活かしたい人を登 録し、学びたい人に紹介する人材 バンク制度への登録者数)	117人	134件	103件	145人	71.0
<b>人権講座の参加者数</b> (ブロック別研修会などの人権教 育の講座に参加した人数)	762人	696人	257人	790人	32.5
<b>公民館事業のうち市民等と協 働で企画実施した事業の割合</b> (実行委員会を組織して企画運営 するなど、市民等と協働で実施し た事業の割合)	58.8%	58.6%	38.0%	64%	59.4

基本目標 2 誰もが、いつまでも 身体を動かしたくなるまちをめざします

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
<b>週1回以上スポーツを実施す る成人の割合</b> (スポーツ実施率)	38.2%	69.1%	59.2%	50%	118.4
<b>「ところざわほっとメール」 における「スポーツ情報」の 利用登録者数</b>	4,554人	5,394人	6,506人	6,300人	103.3
<b>市ホームページ等のスポーツ 情報発信数</b> (市内のスポーツイベント等の情 報発信回数)	213回	239回	274回	300回	91.3

基本目標3 生涯の学びを支える身近な情報拠点としての図書館をめざします

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
<b>レファレンス件数</b> (専門的な調査を要する市民からの質問に対し、図書館資料や情報検索機能を活用して回答した数)	1,217件	902件	930件	1,367件	68.0
<b>貸出密度</b> (市民1人あたりの貸出数)	4.7冊・点	4.5冊・点	3.8冊・点	5.0冊・点	76.0
<b>図書館の蔵書数</b> (適正な蔵書管理による図書館全館の図書資料[雑誌・視聴覚資料を除く、紙芝居を含む]の蔵書数)	967,022冊・点	986,932点	999,432点	1,034,000冊・点	96.6
<b>子ども1人あたりの児童書数</b> (0歳から18歳の子ども1人あたりの市立図書館が所蔵する児童書数)	5.8冊・点	6.1冊・点	6.2冊・点	6.4冊・点	96.9

基本目標4 歴史・伝統文化を大切にしふるさと所沢の魅力を高めます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
<b>文化財保護にかかる事業の参加者数</b> (文化財保護課の主催事業の参加者数と埋蔵文化財調査センターと民俗資料館の利用者数)	9,450人	9,434人	3,367人	11,600人	29.0
<b>ふるさと研究活動にかかる延利用者数</b> (展示見学者・講座参加者・閲覧学習室利用者の延総数)	5,882人	4,126人	3,587人	6,150人	58.3
<b>郷土資料利用件数</b> (資料利用許可数と閲覧学習室の利用件数)	389件	1,650件	1,500件	440件	340.9

基本方針 3	地域とともに社会に対応した教育環境をつくります
--------	-------------------------

基本目標 1 社会全体で子どもを育てる地域づくりを進めます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
<b>家庭教育学級の学級生数</b> (小中学校で開設される家庭教育学級の学級生数 [保護者等] の人数*8)	3,003人	3,016人	979人	3,000人以上	32.6
<b>子ども写生大会事業参加者数</b> (子ども写生大会と作品展の大人と子どもの参加者数)*9	3,116人	3,276人	—	3,300人	—
<b>青少年教育地域指導者研修会満足度</b> (研修会後に実施したアンケート調査で「とてもよかった」と回答した人の割合)*9	80%	75%	—	100%	—

\*8...少子化に伴い保護者の減少が予想されるが、現状維持に努めていくものとする。

\*9...「子ども写生大会事業参加者数」と「青少年教育地域指導者研修会満足度」は、令和2年度はコロナ禍により写生大会及び青少年教育地域指導者研修会を中止したことにより「-」表示とした。

基本目標 2 地域とともに歩む信頼される学校づくりを進めます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
<b>特色ある学校づくり支援事業で活用した地域人材の人数</b> (市内小中学校において学校応援団として活動に携わった実人数の合計)	5,603人	5,916人	5,196人	6,110人	85.0
<b>小中連携の推進に向け、「目指す児童生徒像」や「重点目標」を設定し、9年間を見通したカリキュラムを編成している小中学校の割合*10</b>	12.8%	40%	20%	100%	20.0
<b>教育センターが実施する教職員研修の満足度</b> (参加者アンケートで「大変よかった」「ややよかった」の合計が100%となった研修会の割合)	84%	83.3%	59.4%	100%	59.4

\*10...カリキュラムとは、学習規律、授業での約束、発達段階を踏まえた教科指導等、教育課程の中での「目指す児童生徒像」を具現化したもの

### 基本目標 3 時代に応じ可能性を広げる教育環境を築きます

指 標	計画策定時 (平成29年度)	前年度実績値 (令和元年度)	最新値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成率(%)
<b>普通教室のLAN整備率</b> (小中学校の普通教室で教育ネットワークを活用した授業が可能となる割合)	0%	0%	100%	100%	100.0
<b>市内小中学校における電子黒板の導入割合*11</b> (「ICT環境整備」に資する電子黒板の導入割合)	17%	24%	100%	45%	100.0
<b>学校トイレの洋式化率</b> (所沢市立小中学校のトイレの洋式化率)	35%	44.2%	48.2%	53%	90.9
<b>スポーツ・レクリエーション施設利用者数</b> (屋内・屋外スポーツ施設の年間利用者数)	858,492人	778,132人	447,201人	861,500人	51.9

\*11...令和2年度に児童生徒1人1台の学習者用コンピュータを整備したことにより、全ての普通教室及び一部の特別教室に大型提示装置が早急に必要となったことから、導入装置を電子黒板から液晶ディスプレイに変更し、全ての普通教室に液晶ディスプレイを導入した。

## 5 学識経験者の意見

点検評価にあたり、客観性・透明性の確保という観点から、外部評価者として学識経験者3名からご意見・評価をいただきました。概要については、次のとおりです。

### (1) 点検評価報告書全般について

令和2年度は「GIGA スクール構想」の実現に向けてオンライン教育の環境整備に忙殺される一方、学校現場では感染症対策の徹底や休校が相次ぎ、計画していた教育活動の変更や縮小等を余儀なくされたものと思われる。また、それぞれの分野で事業の開催ができずに目標の達成に至らないものも見られたが、やむを得ない状況であったと思われる。

令和3年度においても、コロナの収束のめどは立たず大変厳しい状況が続いていることからコロナ禍における「新しい生活様式」に対応した授業やイベント開催のあり方についてICTを最大限活用する等、工夫をこらした学校運営や各種事業が展開されることを期待する。各施策については実施状況の記述は多いが、どのような事業でも現状の課題を認識しておくことで、今後の方向性が明確になるものと思う。

### (2) 各施策に対する評価について

#### 1 子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます

##### 1-1-(1) 「確かな学力の育成」

・学力向上策として「学び創造アクティブ PLUS」を位置づけ、学習支援員や学力向上支援講師の配置による指導・支援体制の強化や「所沢市ステップアップ調査」による成果の把握と分析、「校務支援システム」による業務支援など、確かな学力の育成に総合的に取り組んでいることは大変評価できる。今後も多面的な施策の実施に期待する。様々な施策によって「確かな学力の育成」が推進されていることが理解できた。成果を明確にする必要があると思うので、数値的な評価もできると良いのではないかと。

・コロナ禍の影響を受けて実施出来ない事業も見受けられたが、工夫を凝らした対応で「学び創造アクティブ PLUS 事業」を進めたことを評価する。引き続き感染症対策に配慮した事業運営により、成果をあげることに期待する。

##### 1-1-(2) 「伝統・文化の尊重とグローバル化に対応した教育の推進」

・「研修会を充実する必要性」を課題に挙げており、当事者の問題意識を見ることができると。

##### 1-1-(3) 「情報教育の推進」

・「Chromebook」一人一台の積極的な導入は、児童生徒の情報活用能力や情報モラル等を高める好機である。

教育行政と学校の連携による教育 ICT 環境の充実と指導方法の工夫により情報機器の積極的な活用を図り、児童生徒の ICT 活用能力や情報倫理の向上に繋げてもらいたい。教

育における ICT 活用は、子どもの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や主体的・協働的な学びに効果的であると言われている。教職員の ICT 活用技能を把握の上、指導・研修を行い、一人一人の技能の上達を図ってもらいたい。

・GIGA スクール構想に基づく ICT の環境整備を迅速に進めたことを評価する。引き続き教員を対象にした研修の充実を図り、成果をあげることに期待する。

#### 1-1-(4)「キャリア教育の推進」

・「施策の課題」としてキャリア教育を行う上で必要なことが幾つか挙げられていて「課題」への確かな問題意識を見ることができる。

#### 1-1-(5)「特別支援教育の推進」

・コロナ禍の影響から特別支援教育支援員及び身心障害児介助員の研修として資料提供による研修会を実施しているが、重要な研修であることからリモート研修等により工夫を凝らして開催する必要がある。

#### 1-2-(4)「読書活動の推進」

・学校司書の全校配置により、図書の整理や学校図書館における活動など図書館の環境や機能が充実し、子どもたちにとって親しみやすく利用しやすい学校図書館づくりが進められている。一方で蔵書数の課題については、学校図書館図書標準を満たせない要因を明らかにしたうえで改善策をとり、魅力的な書籍や学習に役立つ書籍等を増やすとともに年数の経過した書籍の更新を進めていく必要がある。

・学校司書が全校に配置されたことを機に図書を活用した調べ学習の充実や児童生徒の読書への関心を更に深めてもらいたい。また、予算との兼ね合いもあるとは思いますが、学校図書館図書標準を満たすべく充実した蔵書に努めてもらいたい。

#### 1-2-(5)「生徒指導の充実」

・子ども一人一人を大切にするとともに豊かな心を育むことを目的に「所沢市いじめ防止基本方針」に則り、教職員の指導力向上のための研修や「スクールカウンセラー学校派遣事業」、「教育相談アドバイザー支援事業」を進め、また警察や児童相談所など専門機関との連携などにも取り組んでいる。引き続き、学校、教育委員会、専門機関、地域、PTA の総力で、子どもたちが「早く学校に行きたい、友達に会いたい、先生に会いたい」と言っている学校づくりに努めてもらいたい。

・【児童・生徒の地域行事への参加人数】がコロナ禍の影響により激減しているが、感染収束後の参加を期待する。

#### 1-2-(6)「相談体制の充実」

・令和 2 年度から市費スクールカウンセラーが配置され、充実した相談体制のもと、支援が行われていることが確認できた。また、新たに開始した「教育相談アドバイザー支援事業」について、成果を検証すると共に事業を拡充してもらいたい。

相談業務については、コロナ禍が影響して家庭環境や生活環境（困窮）等が原因となる

ケースも増えていることから、それぞれの児童生徒の実情に配慮し、関係機関等との更なる連携を図り適切な支援につなげていくことが必要だと思う。

#### 1-3-(1)「学校保健の充実」

・児童生徒の食物アレルギー発症や命にかかる事案の未然防止のために、各学校が管理職を中心に適切かつ迅速な対応がとれるよう、情報提供や教職員の研修に一層努めてもらいたい。

#### 1-3-(2)「学校給食・食育の充実」

・給食残食率を下げるための献立の組み合わせや調理の仕方などに工夫が見られる。「特別給食献立」などのアイデアも魅力的。発展的継続的な取組に期待する。

#### 1-3-(4)「体力の向上」

・コロナ禍の影響により各種の取組を制限したり中止せざるを得ない中、オンラインを活用した運動の機会や場を提供できたことは工夫があり大変良い。

・施策の課題と今後の方向に、コロナ禍の影響による体力の低下が懸念されることを「課題」として挙げられており、当事者の問題意識を見ることができる。

・コロナ禍の影響による児童生徒の体力の低下が心配される中、所沢市公式 YouTube チャンネルを利用した「自宅で運動に親しめる動画集」の配信や「地域力活用運動好きな子ども育成事業（航空記念公園運動場での事業開催等）」の実施等、感染拡大防止に配慮した取りくみがなされている。今後も地域や体力向上推進委員と連携し、児童生徒の体力向上に向けて事業を進めてもらいたい。

## **2 学びの絆ひろがる豊かな人づくり・地域づくりを進めます**

#### 2-1-(1)「学習機会の充実」

・コロナ禍であっても市民の生涯学習意欲は変わることなく学習講座への思いや願いが強くあることや、分野のニーズも多様であることが分かる。市民の興味関心に沿った講座の開発や継続に今後も力を入れてもらいたい。

#### 2-1-(4)「人権教育の充実」

・人権講座参加者数がコロナ禍の影響により減少しているが、感染に配慮してリモート研修を実施する等、充実に努めてもらいたい。また、最近では教育現場における「LGBT教育」が課題となっており、自分の性に違和感を持つ児童生徒もいることから、教員をはじめとした関係者に対して更なる「LGBTQ」への理解を深める人権学習やワークショップの開催等を進めてもらいたい。

#### 2-2-(1)「市民の健康・体力づくりの推進」

・コロナ禍の影響による自粛生活から体力の衰えを感じる市民が増加していると思われる。引き続き感染防止に配慮してスポーツ教室を開催すると共に、自宅で気軽にできる運動や体操等を YouTube で配信する等、事業の推進に向けて取り組んでもらいたい。

#### 2-2-(2)「競技会場の確保や交流機会の充実」

・東京オリンピック・パラリンピックに際し、応援イベントや選手との交流は大変貴重な経験である。対面での実施が難しい場合は、オンラインを活用した企画などにより、子どもたちがオリンピック・パラリンピックの感動を享受できるように期待する。

#### 2-3-(1)「図書館サービスの向上」

・「コンビニエンスストア図書等取次事業」に関しては、緊急事態宣言下による配送中止期間があったことから貸し出し数は減少しているが、コロナ禍における利用者のニーズは高いと思われることから引き続き取次店舗の拡充に努めてもらいたい。

#### 2-3-(4)「子どもの読書活動の推進」

・「子どもの読書活動推進事業」の評価において小2・中2の児童生徒の平均読書冊数の向上が報告されており、推進事業の総合的な取組の成果と思われる。

難しさはあると思うが、向上の具体的な要因を明らかにし、より効果的な方策が示されることに期待する。

#### 2-4-(1)「文化財の保存・活用・調査」

・文化財の保存や活用、調査は次世代に継承するための地道な施策である。事業の厚みを継続させるとともに学祭的な視点からも取り組んでもらいたい。

#### 2-4-(4)「ふるさと研究の推進」

・『ところざわ歴史物語』増補改訂版が市制施行70周年を記念して発行された。歴史を通じてふるさとに愛着を持ってもらえるように積極的なPRを行うと共に講演会等でも活用してもらいたい。

#### 2-4-(5)「郷土に関する資料の収集・保存・活用」

・郷土資料等が分散管理されていることから引き続き「所沢市郷土資料等収蔵施設整備に係る庁内検討調整会議」における検討を進め、適切な対応をしてもらいたい。

### **3 地域とともに社会に対応した教育環境をつくります**

#### 3-1-(1)「家庭教育への支援」

・家庭教育学級については、小中学校合同や複数の学校による合同開催など開催の仕方に工夫が見られる。またICTの活用など開催方法にも新しいアイデアがある。今後も学び甲斐のある講座のつくり方や学び方の工夫など、家庭教育学級の企画支援を望む。

・「施策の内容と今後の方向」にも記述があるように、講座に参加できない家庭に対しても動画配信等を行い、積極的な支援に努めてもらいたい。コロナ禍の影響により事業の規模は縮小しているもののHPによる情報提供や公開講座の開催を始めたことは評価できる。

#### 3-1-(2)「放課後の居場所づくり」

・「ほうかごところ」のスタッフ研修に「特別支援教育」を視点とする内容が取り入れられていることは、子どもの活動に応じた適切な支援やよりきめ細かい支援に繋がるものと思う。

#### 3-2-(1)「教師力・組織力の向上」



・「所沢市立学校における働き方改革基本方針」の策定は、教職員の負担軽減や長時間勤務の解消に繋がるものと思う。現況のコロナ禍において学校には、児童生徒の安全確保を第一優先としてオンラインやオンデマンドといったこれまでに経験のなかった指導方法の工夫や学校行事の工夫など、幅広く効果的な対応が求められている。こうしたことに伴い教職員の負担も増加し、緊急対応も含め働く時間が長くなる可能性もあるので、教職員の働き方の不断の検証と見直しが行われよう望む。

### 3-2-(3)「危機管理体制・学校安全の充実」

・安全・安心な学校と地域づくり推進本部会議がコロナ禍の影響で書面開催となり2回目は中止となっているが、会議の開催が困難であっても情報の共有はしっかり行い、安全・安心な学校と地域づくりに努めてもらいたい。

### 3-3-(1)「ICT環境の整備」

・多様な学習活動や学習方法が可能となる教育ICT環境の整備が迅速に進められている。子どもたちを取り巻く教育ICT環境が「学校のスタンダード」となるよう、事業の発展的継続とスピード感のある進捗に期待する。

・GIGAスクール構想の実現に向けてICTの環境整備に限られた期間に予定どおり完了されたことは評価できる。指標の達成ではICTを活用して指導できる教職員の割合は約70%となっている。引き続き研修の充実を図り、目標値に近づけてもらいたい。

### 3-3-(2)「学校環境の整備・適正化」

・学校トイレ改修事業については財源等の問題はあるが、2系統目の整備に向けて計画的に進めてもらいたい。また、校舎内部改修(木質化)の整備方針を定めたことから、計画的に整備を進めてもらいたい。

### 3-3-(4)「社会教育施設的环境整備」

・並木公民館自動扉設置等改修工事により障害者の利便性向上が図られている。今後も施設のバリアフリー化を実現し、誰もが利用しやすい施設運営に努めてもらいたい。

### 3-3-(5)「就学にかかる経済的支援」

・就学援助制度については、再審査制度や印鑑の廃止により改善を図ったことは評価できる。コロナ禍の影響で生活困窮世帯も増えていることから丁寧に制度を周知し、必要に応じて他機関との連携を図ることも必要だと感じる。

秋草学園短期大学名誉教授

及川 道之

国立研究開発法人科学技術振興機構 主任調査員

川音 孝夫

所沢市社会福祉協議会 常務理事

美甘 寿規

## 6 資料・教育委員会の活動状況

### (1) 令和2年度教育委員会会議の開催状況

#### 定例会

年月	付議事件
令和2年5月	所沢市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する訓令について 所沢市立幼稚園職員服務規程の一部を改正する訓令について
令和2年7月	所沢市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の一部を改正する条例議案に対する意見について 所沢市立学校給食センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱について 令和3年度使用教科用図書の採択について 令和2年度教育委員会予算(9月補正)について
令和2年8月	所沢市社会教育委員の委嘱について 令和3年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について 所沢市立所沢図書館協議会委員の任命について 令和2年度教育委員会予算(9月補正追加)について
令和2年9月	令和3年度当初所沢市立小・中学校教職員人事異動の方針について
令和2年10月	所沢市教育功労者表彰規程の一部を改正する訓令について 所沢市公民館運営審議会委員の解嘱及び委嘱について 所沢市就学支援委員会委員の解嘱及び委嘱について 所沢市パークゴルフ場の指定管理者の指定について 小・中学校液晶ディスプレイ外の取得について 学習者用コンピュータ用ACアダプタ(Lenovo社製)の取得について 令和2年度所沢市教育功労者の表彰について 令和2年度教育委員会予算(12月補正)について 令和3年度教育委員会当初予算について
令和2年11月	令和3年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について 令和2年度所沢市教育功労者(追加)の表彰について
令和2年12月	令和2年度教育委員会予算(3月補正)について 県費負担教職員の人事に関する内申について 県費負担教職員の人事に関する内申について 所沢市歴史的建造物整備基本方針策定委員会条例制定について
令和3年2月	所沢市教育委員会事務局組織及び各課事務分掌規則等の一部を改正する規則制定について 所沢市教育委員会事務決裁規程及び所沢市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令について 所沢市立公民館設置及び管理条例施行規則等の一部を改正する規則制定について 令和2年度教育委員会予算(3月補正・追加)について 令和3年度教育委員会当初予算(補正)について 県費負担教職員(管理職)の人事に関する内申について
令和3年3月	所沢市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則制定について 所沢市立小中学校事務共同実施運営規程制定について 所沢市文化財保護条例施行規則等の一部を改正する規則制定について 令和3年度所沢市教育行政推進施策について 所沢市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 所沢市教育委員会指定管理者選定委員会委員の委嘱について 所沢市いじめ問題対策委員会委員の委嘱について 所沢市教育委員会職員(管理職)の人事異動について

教育委員会会議の会議録は、市のホームページに掲載しております。

### 協議事項

年 月	付 議 事 件
令和2年6月	令和3年度所沢市立所沢第二幼稚園園児募集について
令和2年9月	令和2年度所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書について
令和3年2月	令和3年度所沢市教育行政推進施策について
令和3年3月	教職員の不祥事根絶について

### 視察

年 月	視 察 場 所
令和2年8月	若松小学校 東所沢小学校 ところざわサクラタウン
令和2年10月	富岡小学校 北野小学校 上山中学校 狭山ヶ丘中学校
令和3年2月	所沢小学校 所沢中学校

### 教育懇談会

年 月	懇 談 内 容
令和2年11月	コロナ禍における学校生活 ~現状と課題~

### その他

活 動 内 容
埼玉県市町村教育委員会連合会総会（書面決議） 関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会・研修会（書面決議） 人間地区教育委員会連合会視察研修 市内小中学校卒業式及び運動会・体育祭 所沢第二幼稚園卒園式 所沢市成人のつどい

## （2）令和2年度教育費予算・決算

令和2年度教育費（歳出）の当初予算額は111億8,477万7千円で、市費全体の中で占める割合は10.5%、決算額は120億1,490万円で、市費に占める割合は8.3%でした。

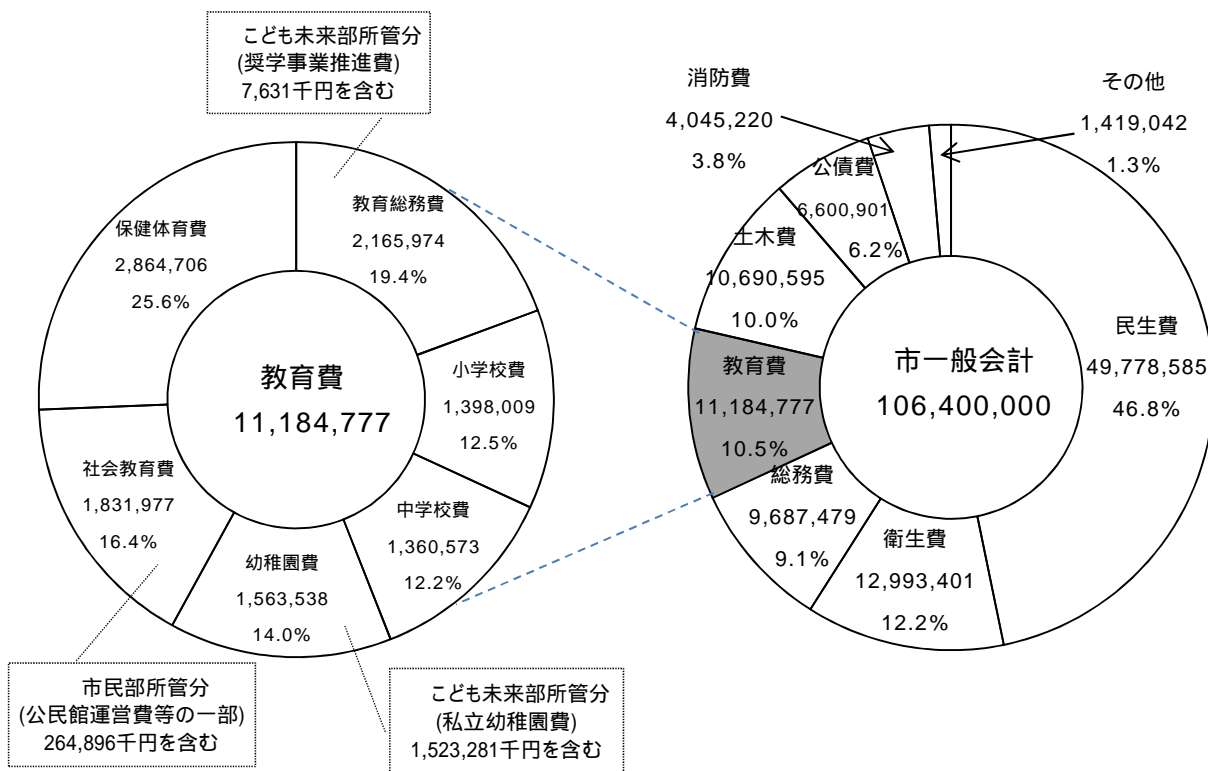
決算額のうち、教育費を市民一人あたり<sup>\*1</sup>に換算すると34,866円、小学校費・中学校費の合計額を児童生徒一人あたり<sup>\*2</sup>に換算すると115,023円となります。

\*1 市内の人口 344,604人（令和2年5月1日現在）

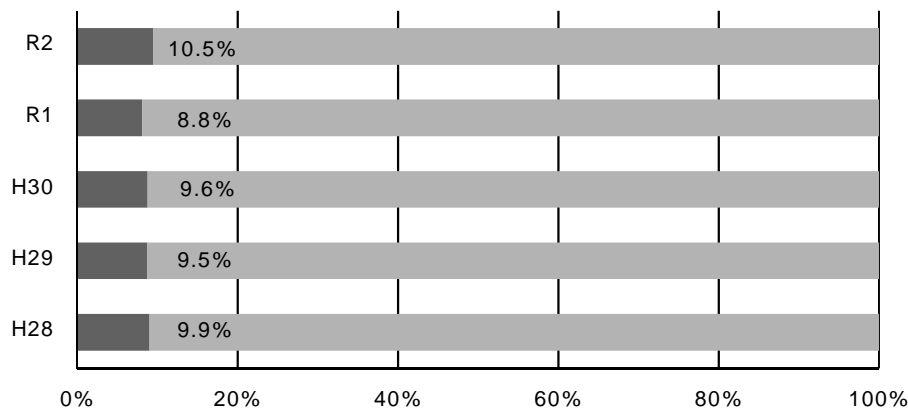
\*2 児童生徒数 小学校16,362人、中学校7,841人 合計24,203人

（学校基本調査による児童・生徒人数 令和2年5月1日現在）

令和2年度当初予算（単位：千円）



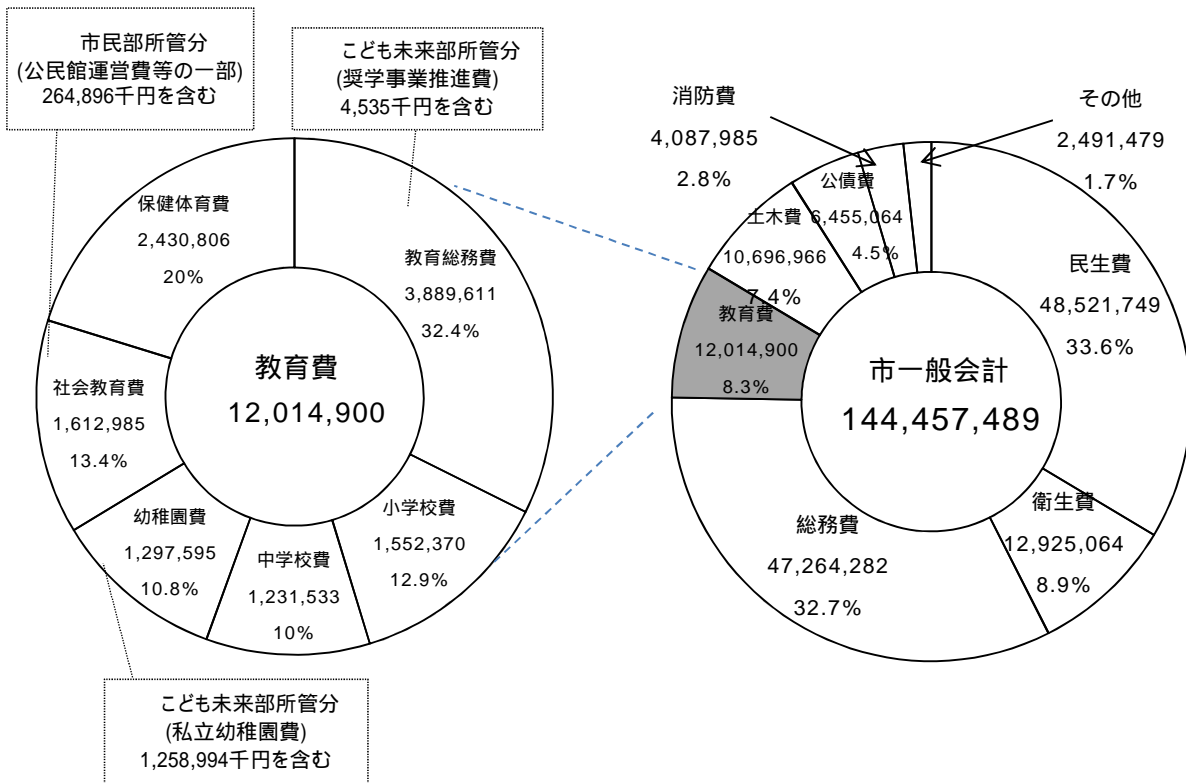
市費に占める教育費の割合の推移



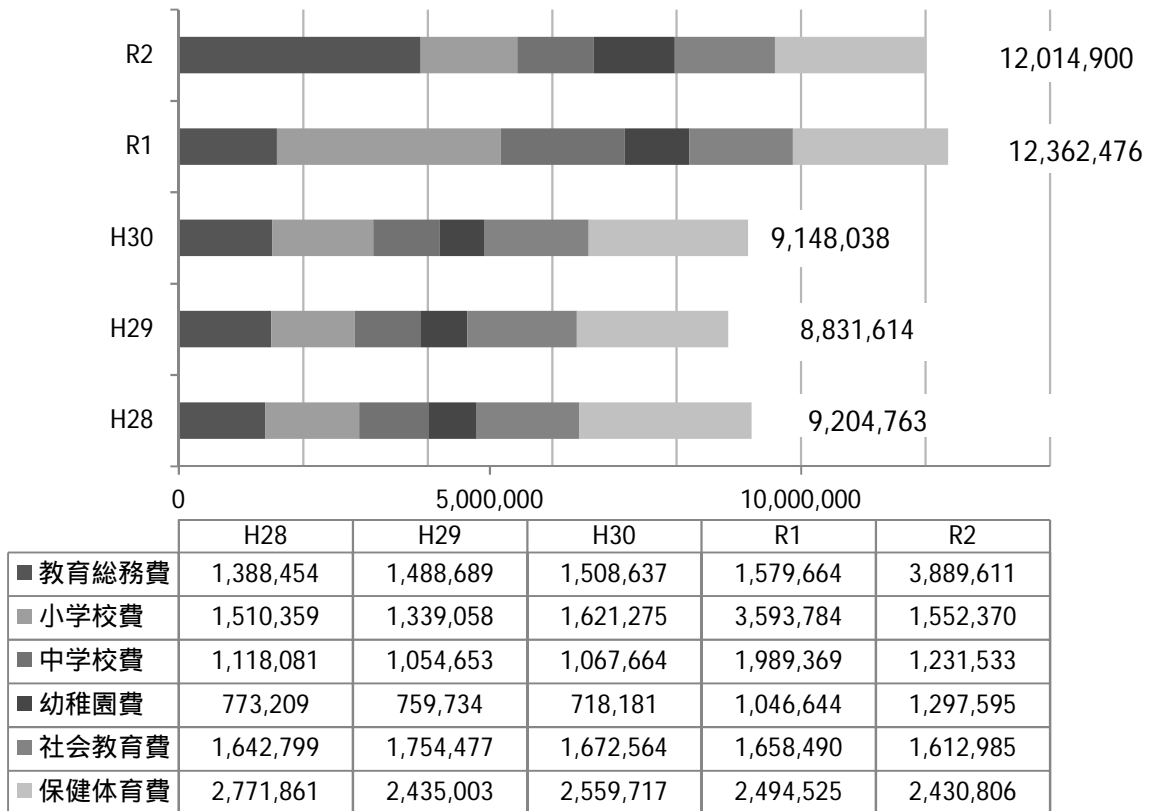
	H28	H29	H30	R1	R2
■ 教育費(千円)	9,796,964	9,245,305	9,669,484	9,647,917	11,184,777
■ 市費(千円)	98,950,000	96,940,000	100,250,000	109,480,000	106,400,000
■ 割合 (%)	9.9%	9.5%	9.6%	8.8%	10.5%

当初予算

令和2年度決算（単位：千円）



項目別教育費決算額の推移



単位：千円

## 7 むすび

所沢市教育委員会では、令和2年3月に策定した「所沢市第2次所沢市教育振興基本計画(令和元年度～令和5年度)」に基づいて教育行政を推進しており、この点検評価は、基本計画に掲げた主要施策について行っています。

施策ごとに点検評価を行うことで、計画の進捗状況を適切に把握すると共に、各施策に対応する主な事業の実施状況も併載し、事業ごとに実施状況の確認ができるよう作成しています。

今回の「指標の達成状況」を見ると、令和2年度に教育委員会が取り組んだ事業は、コロナ禍の影響を受け達成率が前年度より下降した項目も多く見られました。目標に及ばなかった項目に関しては、目標達成に向け、新しい生活様式に対応した取り組みを行う等、今後さらなる事業の推進に励むことが求められます。

教育委員会は、「みんなが持っている三つの”宝”」すなわち「心身のたくましさ」、「未来を拓く知恵」、「ふるさと所沢を愛する心」を掘り起こして大きく育てる、という基本理念のもと、目標の実現に向けて、引き続き努力していく必要があると考えます。

今回の点検評価によって明らかになった課題に対し、学識経験者からいただいた意見を参考にして各事業の改善に取り組み、今後も効果的な教育行政の推進に努めてまいります。



教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書

令和3年8月

発行 所沢市教育委員会（教育総務部教育総務課）

〒359-8501 所沢市並木一丁目1番地の1

TEL 04-2998-9232

FAX 04-2998-9128

E-mail [a9232@city.tokorozawa.lg.jp](mailto:a9232@city.tokorozawa.lg.jp)